

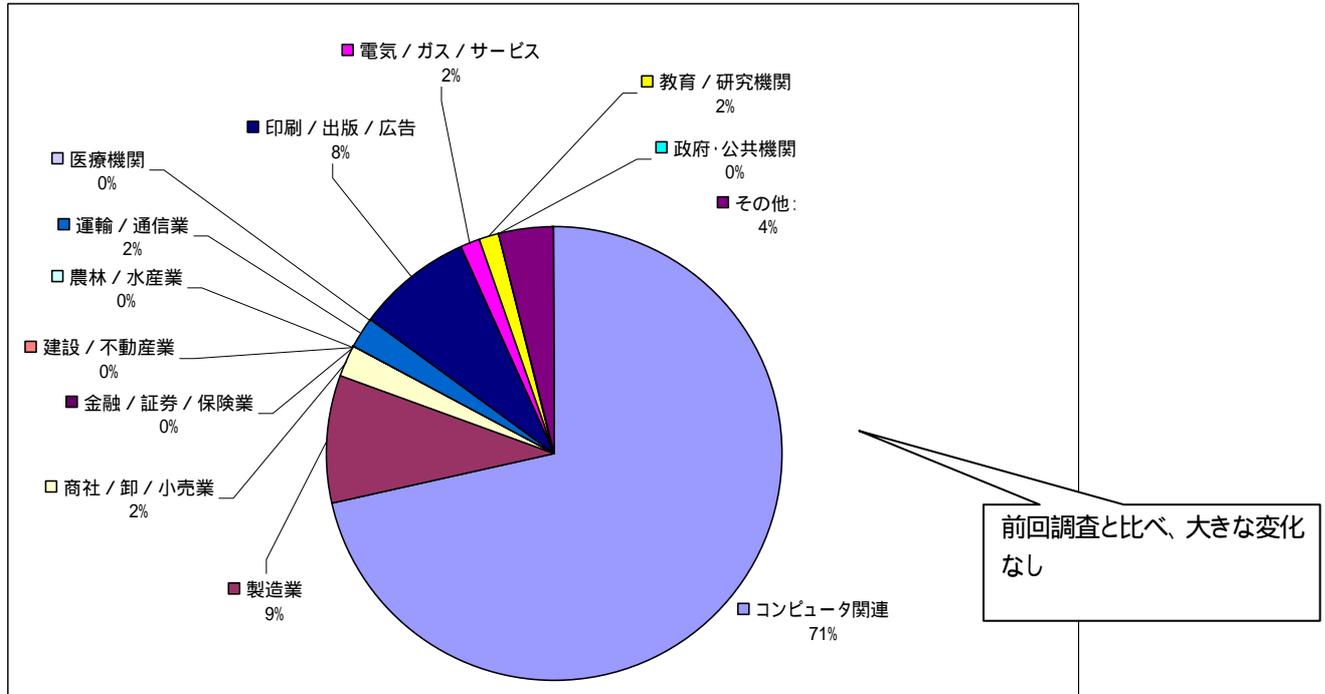
XML コンソーシアム会員アンケート結果

2007年3月
XML コンソーシアム

実施期間: 2006年12月6日 - 12月20日
回答数 : 135 会員(会員総数:173 会員 回答率:78%)

XMLコンソーシアム「活動アンケート」

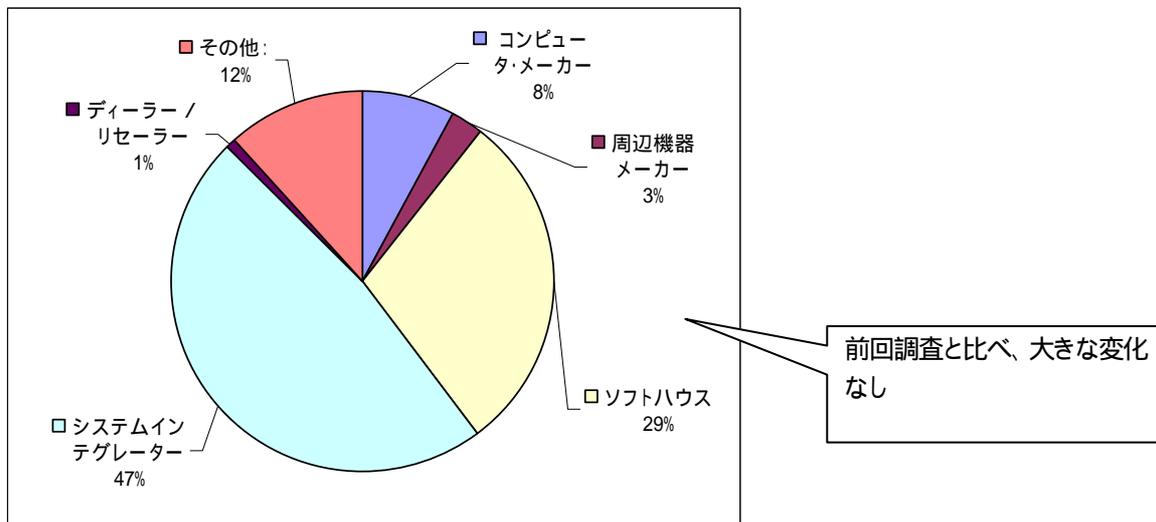
1. 主要業種



その他:

金融情報提供サービス、IR 関連印刷、他
情報セキュリティコンサルタント事業
マスコミ
人材派遣業
人材教育研修サービス、映像制作

コンピュータ関連の内訳

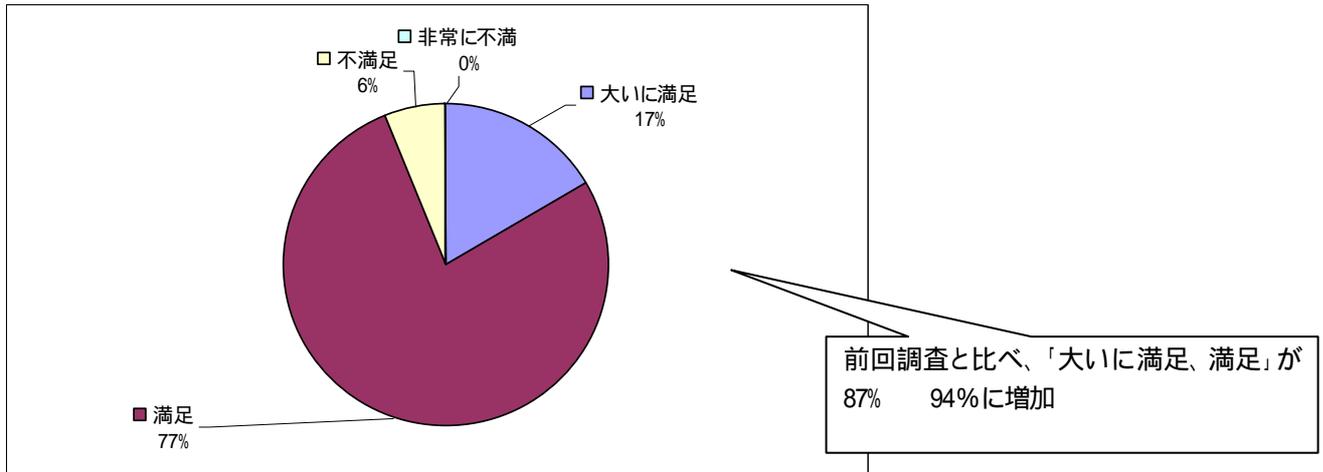


その他:

コンピュータソフトウェアの販売、周辺サービス

ネットワーク機器ベンダー
 コンサルティング
 情報処理・通信関連製品の開発、販売
 気象業務
 ソフトウェアベンダ
 情報処理、XMLコンテンツ作成
 ISV
 システムハウス
 Web制作会社
 ソフトウェア・メーカー

2. XMLコンソーシアムのこれまでの活動に対する評価および選択された理由



選択された理由:

大いに満足の理由:

興味深い活動が行われている
 特定業界へのXML普及活動・支援
 ” ”
 先行できるメリットは大きい
 迅速な取り組み
 技術動向を知ることができる
 最新情報が取得できる
 提供される情報量が膨大
 他社メンバーとの意見交換

9 (コメント数: 以下同様)

Web2.0、XMLDB、内部統制などの部会、勉強会の設立
 クロスメディア・パブリッシング部会活動
 TravelXML部会
 2～3年後に必ず必要となる活動内容
 XMLに関する最新情報の提供、旬の話題
 世の中の最先端の技術動向
 技術やマーケットに関する情報
 会費の割りに
 アイディアの醸成を促進できる

満足の理由:

XML関連の情報収集に役立つ
 普及に努めている

18

活動が活発
 勉強会、セミナーが多い
 勉強会、部会への参加

5

2

2

2

2

部会、イベントの質が高い
 先進的な取り組み
 運営がきちんとしている
 ドキュメント
 場の活用ができる

1

1

1

1

1

最先端情報、最新情報、関連情報、技術動向・業界動向、利用情報
 XML技術の普及、研究・標準化活動やセミナー開催などを通して、
 新しいXML技術の創出
 新しい技術への積極的な取り組み
 積極的なセミナー開催、勉強会やセミナー開催が多い
 新規技術に関する部会への積極的な参加、勉強会に参加できるようになった

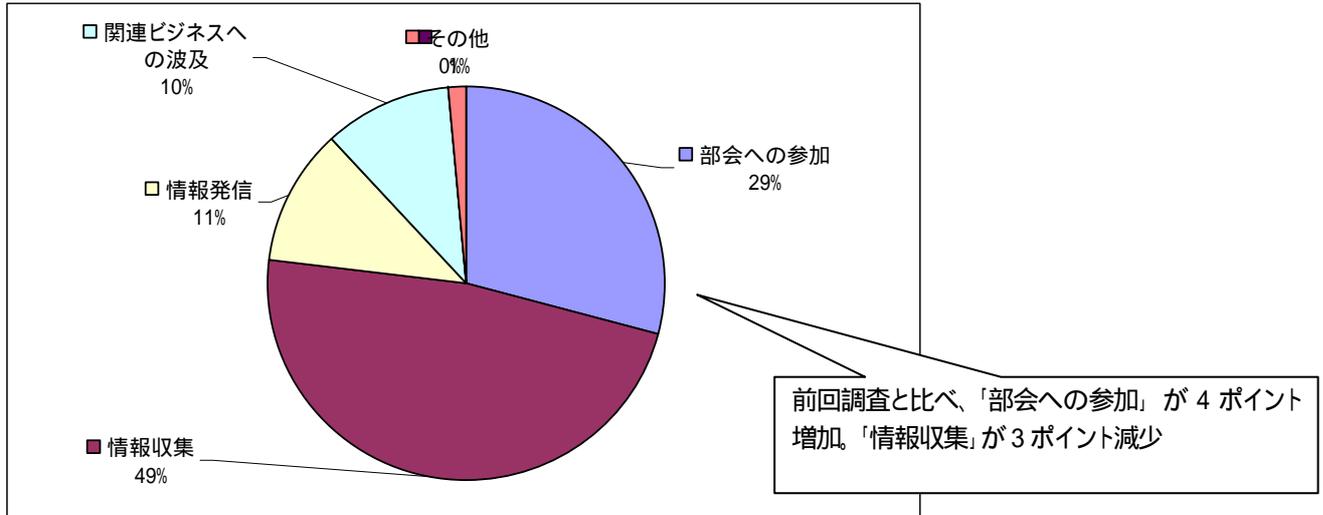
成果発表等の資料がしっかりしている
 取り扱い製品の市場にあっており、情報提供、共有の場として利用できる

不満足の理由:

1

社内的に十分活用された言い難い

3. XMLコンソーシアムに参加する期待やメリット



部会への参加 その他:

他社の事例研究・見学
事情により参加できておりません。

情報収集 その他:

他社様の取組み
XML 関連の技術評価・市場動向等の情報

情報発信 その他:

XML DB 勉強会

その他:

コンソーシアム活動と自社業務が重なる領域における実績、能力が顧客の信頼獲得に寄与する
いわゆる幽霊部員の方が多すぎて、特定のメンバへ負荷が偏っている。手弁当の範囲を超えているのではないかと
ベンダー企業とユーザー企業の接点の場
事例・製品紹介

4. XMLコンソーシアムに期待される今後のテーマ

技術関連:

Web2.0	12
XMLDB	8
SOA	6
Web サービス	5
Semantic Web	3
コンテンツマネジメント	3
ナレッジマネジメント	2
標準化動向	2
EDI	2
ビジネススキーマ	1
製品紹介	1
JSON(脱XML)	1

業界関連:

通信・放送	7
印刷・出版・広告	5
医療	4
教育	3

キーワード

NGN、移動体、自動車間、センサーネットワーク、ネットワーク装置、ワンセグ、地上波デジタル
電子広告、グラフィックス、ドキュメントスキーマ、JDF
電子カルテ、電子紹介書、ヘルスケア
試験、辞書、学籍管理、シラバス管理、教育受講履歴、E-learning

旅行	2	TravelXML、電子チケット
製造業	2	ワークフロー、生産管理
公共・自治体	2	住民票、納税、車検、公共サービス連携
中小企業	2	
食料	1	トレーサビリティ
制御システム・ビルシステム	1	

応用分野:

内部統制	5
財務(XBRL)	2
RIXML	1
組み込み機器	1
RIXML	1
組み込み機器	1

5. XMLコンソーシアムに対するご意見、ご要望

肯定的意見:

活動に満足している

- ・勉強会は非常に役立つ。今後も継続して欲しい 3
- ・興味あるセミナーはじめ活動が充実している 2
- ・XML等の利用促進に大いに貢献しており、素晴らしい
- ・話題のテーマが意欲的に取り上げられており大いに勉強になる
- ・他社との情報交換ができる貴重な機会を得ている
- ・非常に有意義な活動が展開されている
- ・組織体としてきちんとした運営をしている点を評価している
- ・現状参加できる範囲で考えると十分な内容
- ・活発な活動、旬のテーマに対する取り組み、質の高い公開成果物などに満足
- ・これからも頑張ってもらいたい 等

情報発信と啓発活動の継続に期待 4

XMLDB 関連の活動に期待 3

今後も新分野へチャレンジして欲しい 2

更なる知名度向上を目指し、積極的な広報に期待する 1

2006 年度には新しい勉強会も立ち上がっている。その活動をしっかりやっていくべき 1

要望:

活動内容について

- IT 技術の推進にのみ偏ることは避けて欲しい 2
- 各産業・業界への応用・普及にもっと積極的に取り組んで欲しい
- ローライザーション関連の標準化を取り上げられないか
- ターゲットにしている範囲を明確にして欲しい
- 営業が積極的に参加できる場が欲しい
- 活用の実態調査をして欲しい

情報発信について

- Day, Week のスケジュールを早く提示して欲しい
- 雑誌寄稿記事などは、HP 上で公開できるようにならないか?
- セミナーの動画をサイトで公開して欲しい
- 公開資料の ML 配信を希望する
- Web サイトの強化 (RSS による情報発信、ユーザビリティの向上、部会メンバー用ブログなど)

提案:

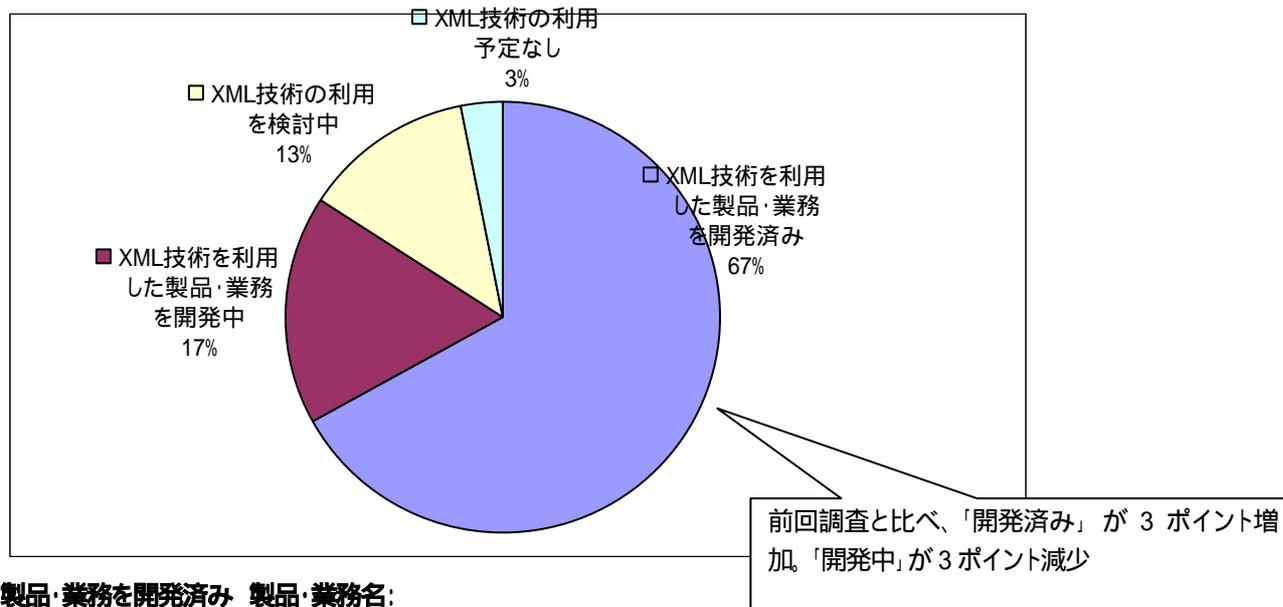
- 普及状況や環境などを勘案し、活動期限を再設定してはどうか?
- ブログや SNS などを立ち上げ、Web2.0 時代にふさわしい活動に
- 勉強会は非会員も自由参加できるようにしたら。

問題提起:

XML はすでに広く普及しており、XML の観点からの活動は難しい時代になったと思う
HP上の公開コンテンツに古い情報が多いのが目につく
コミュニティー要素が減少している
会員数の増加
適切な部会運営がなされないと会員継続が難しくなる

XML 普及度アンケート

6. XML に対する取り組み状況



製品・業務を開発済み 製品・業務名:

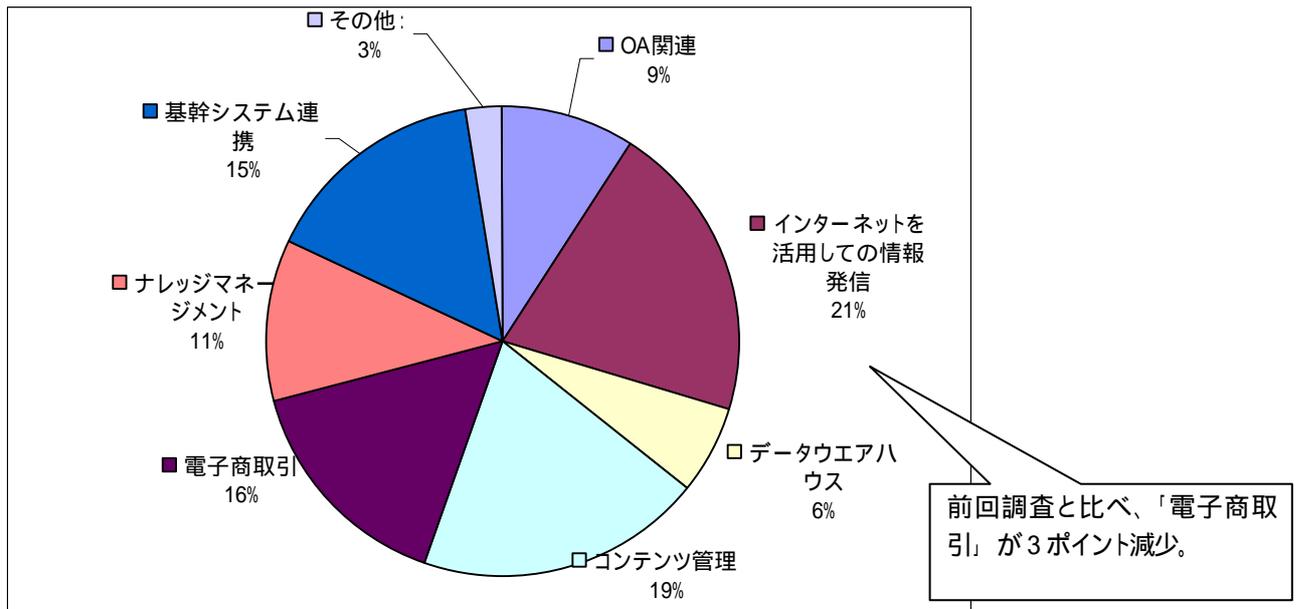
BizPal, BTONIC, NewsBox
ASTERIA
smartEDI
xfy EnterpriseSolutionforDB29, xfyEnterprise SolutionforOracleDatabase10g, xfyBlogEditor ほか
Voizi voice-xml
TX1
WebTOX
ソフトウェアのほとんどの製品、多数のシステム開発実績
Information Wharf, XBRL 適用コンサルティング・サービス他多数
XiRUTE, PolarLake, ProwiseXML
Cosminexus 他
Java, .NET の SI 案件で多数使用
Interstage, 等
モールデータマッピングエンジン
IntelliVoice TE, IntelliVoice Mint
ADOS XMLStudio, ADOS Hestia, ADOS SiteArc
Open Autonomic Network
既に製品に使用されています。設定ファイル等
UMLaut/J-XML
印刷関係
各種 SI で利用
予報データ全般
カタログ制作システム「TRUENEXT」、法律書印刷システム
MFP に内蔵の Web ページを XML 化
XMLDB Cyber Luxeon
業務間連携など

AccessBook
HULFT データ変換 Pro
SecureStar XML
電子マニュアル
DEX Business Server , FleXML
製品: ViewMaker for Web 業務: 販売管理他
Stylus Studio XML IDE, DataDirect Xquery
WordでXMLを作成するツールWord2XML, XDM文書作成管理システム
授業に於いて展開中
Imperva 社 SecureSphere Web アプリケーション・ファイアウォール [代理店販売]
CrossMission
Web、CD-ROM、電子辞書などのコンテンツ制作に利用
Artix、Celtix Experprise
BEA 製品全般
XML マスター資格対策コース
ConfigPro、XML コンバータ、RichResourceStadium
XMLコンバータ、楽2ライブラリ DocumentManager、ConfigPro
常識的に全製品で応用している
印刷分野における情報処理
内部監査管理システム
医療・印刷・画像関連のソフトウェア製品・サービス全般
データ記述やシステム連携でXMLを多用しています。
FLIGHT Contents Manager
電子書籍検索サイト「hon.jp」
リザブリ配信サービス
NeoCoreXMS
EsTerra XML Storage Server , 周辺ツール
Savic-FX など
弥生会計
KnowledgeMarket EnterpriseSuite、HAKONE for Notes,Notes Watcher,PeerLinks
abroad net
LayouyLogic
METAWORKS
DSSSLprint、NEXTPblisher

利用予定なし 理由:

現状では適用案件が無い
Slerであり、お客様の要望で、採用する事はある。
受託中心で継続的なXMLモジュールを使う予定が無い

7. XML技術の適用領域として適するもの(複数選択)

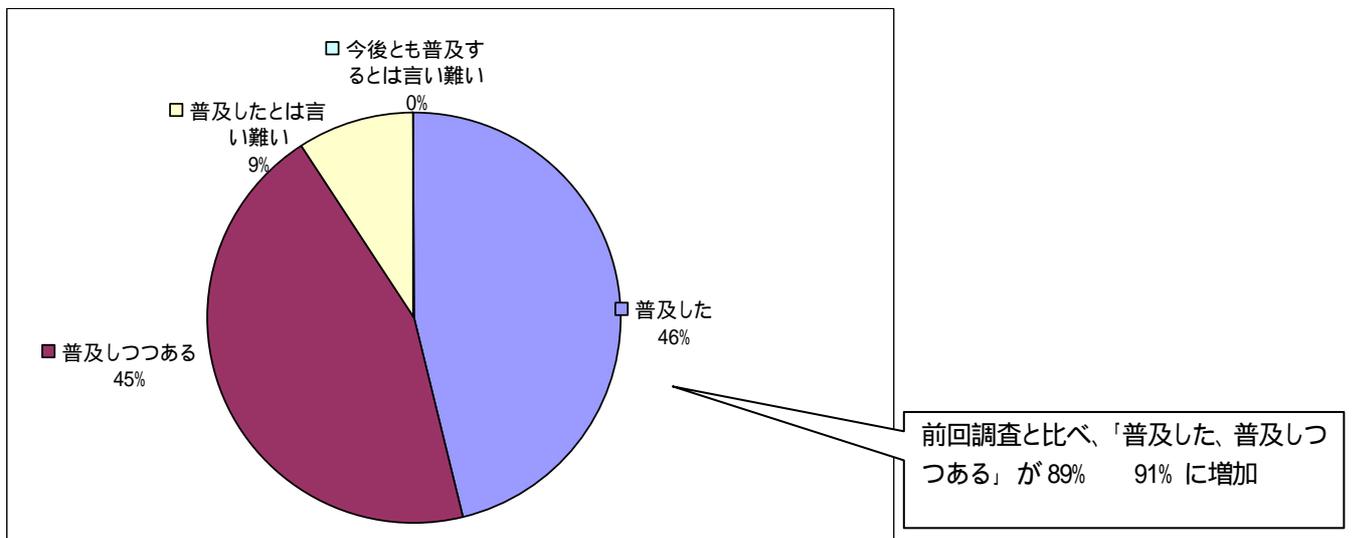


その他:

- ソフトウェア開発、システム管理など
- 機器制御 システム間接続
- 特定の適用領域とは考えにくい
- システム開発
- 機器制御
- 社内情報・コンテンツ再統合
- 保持データの統合
- RFID システム
- NGN で提供されるサービスと企業内システムとのアプリケーション連携やサービス連携
- 電子商取引を含む BtoB
- ドキュメント管理
- マッシュアップによるオリジナルアプリケーションの構築

8. 日本におけるXML 技術の普及度合い

1) IT 業界におけるXML 技術の普及度合い

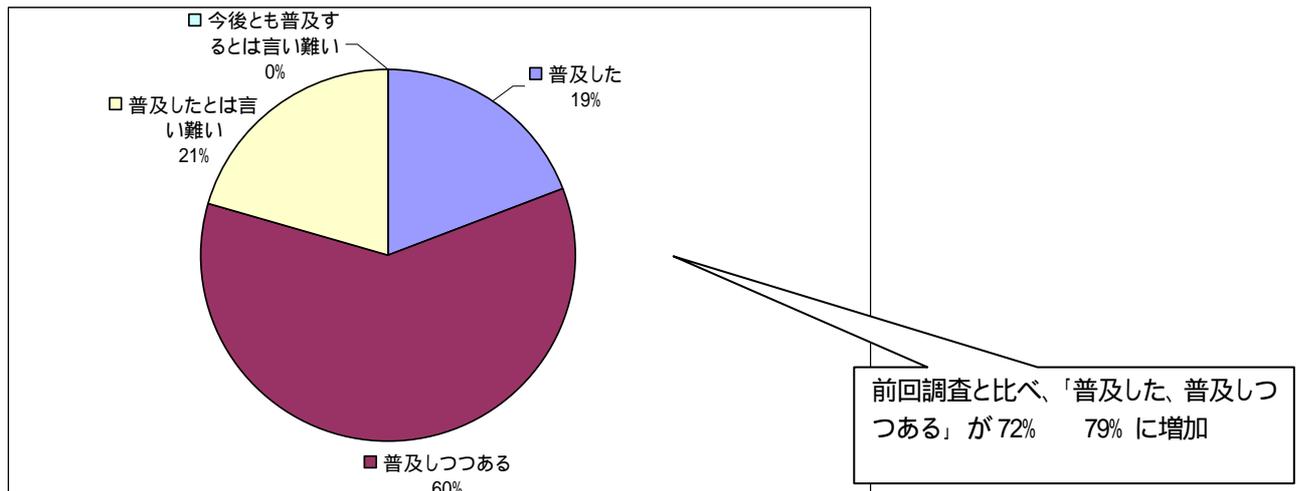


普及したとはいえない理由:

XMLを理解した技術者が圧倒的に不足している
本来、直接操作するものではないと考えます。XMLは形式であり、あくまでデータ表現の一つの方法。

直接関連する業務が少なく判断できない
 XMLに関するスキルが高い人が他の分野ほど多くない
 利用パターンの共通認識不足
 中小企業への浸透が進んでいないと感じる。
 技術者不足・開発事例の少なさ他
 ボキャブラリーなどのギャップを埋める必要がある
 海外のものを使っているか、真似してる程度だから

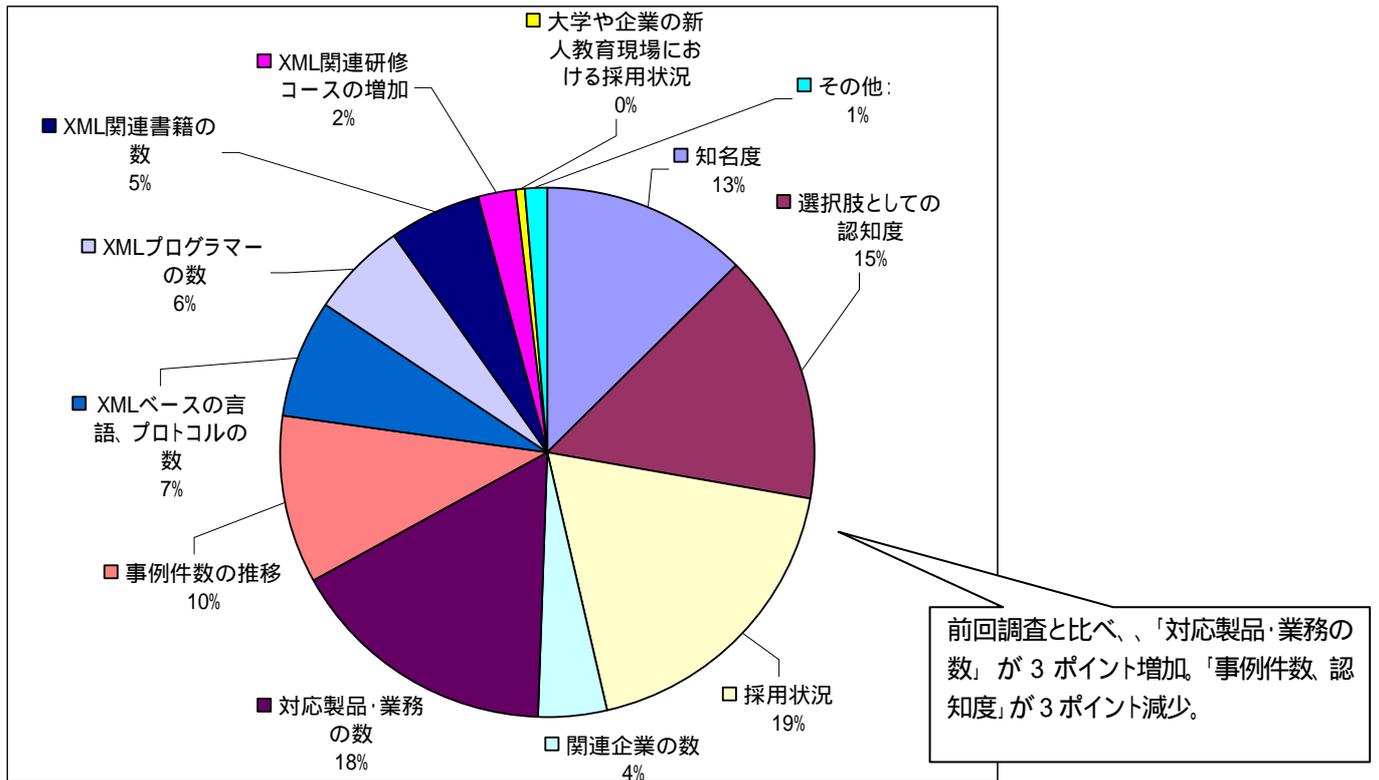
2) ユーザー企業におけるXML技術の普及度合い



普及したとはいえない理由:

まだまだシステムの設計時に使用されるニーズがつかめ切れていないため。ただ潜在ニーズは高いと理解
 man-machine インターフェース(HTML)に比べて、machine-machine インターフェース(xml)の普及度がまだまだ低すぎる
 自社の業務にどのように組み込めるかのビジョンが明確ではない
 上記理由により、直接操作できる人は少ないでしょう。
 XMLをベースにした業務支援のシステムの取り組みは少ない
 直接関連する顧客が無く判断できない
 XMLを使いこなせつベンダーが多くはないため
 CSV形式のデータや、ユニークなiniファイルが活躍している
 中小企業への浸透が進んでいないと感じる。
 日常の会話の中で、XML自体知らないユーザが多い。
 積極的にXMLを取り入れようとするユーザ先が少ない(弊社では)
 エンジニアの不足感があるため。
 XML 純粋な技術者は増えていない。必要ではないのかもしれない。知らないうちにシステムの内部でXMLが利用されている。
 業界の中でのXML技術の導入事例は非常に少ない。
 まだまだフルスクラッチの開発を臨むお客様も多い
 普及はしているが、XMLというものが普及したという認識はない
 詳しい人がすくない
 導入と運用の知識不足
 合目的であればXMLでも何でもいいという意識だから

9. 上記設問を回答するにあたり、普及度合いを判定した基準(複数選択)

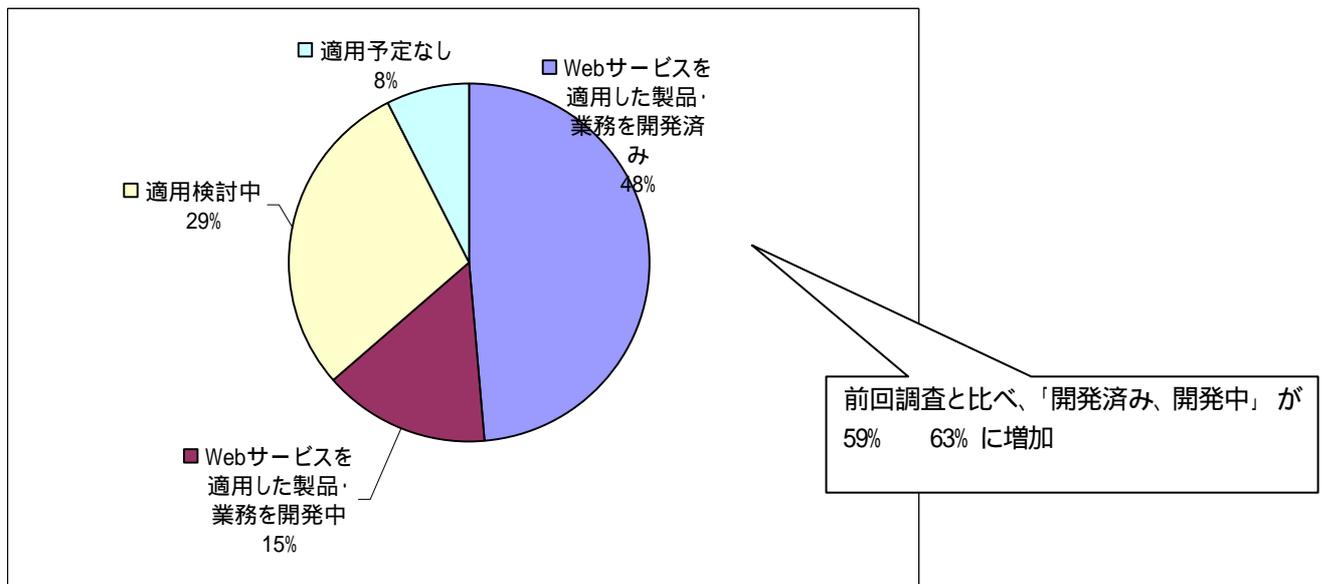


その他:

- xml でなければできないアプリケーションの数
- 現場での感触
- 世間の状況を鑑みて
- 直接関連する業務、顧客が無く判断できない
- 世の中で利用されるアプリやデータ(特にフリーウェア)
- XML の用語から関連用語に事例が大きく変化している

Web サービス普及度アンケート

10. Web サービスに対する取り組み状況



適用した製品・業務を開発済み 製品・業務名:

- BizPal, BTONIC
- ASTERIA

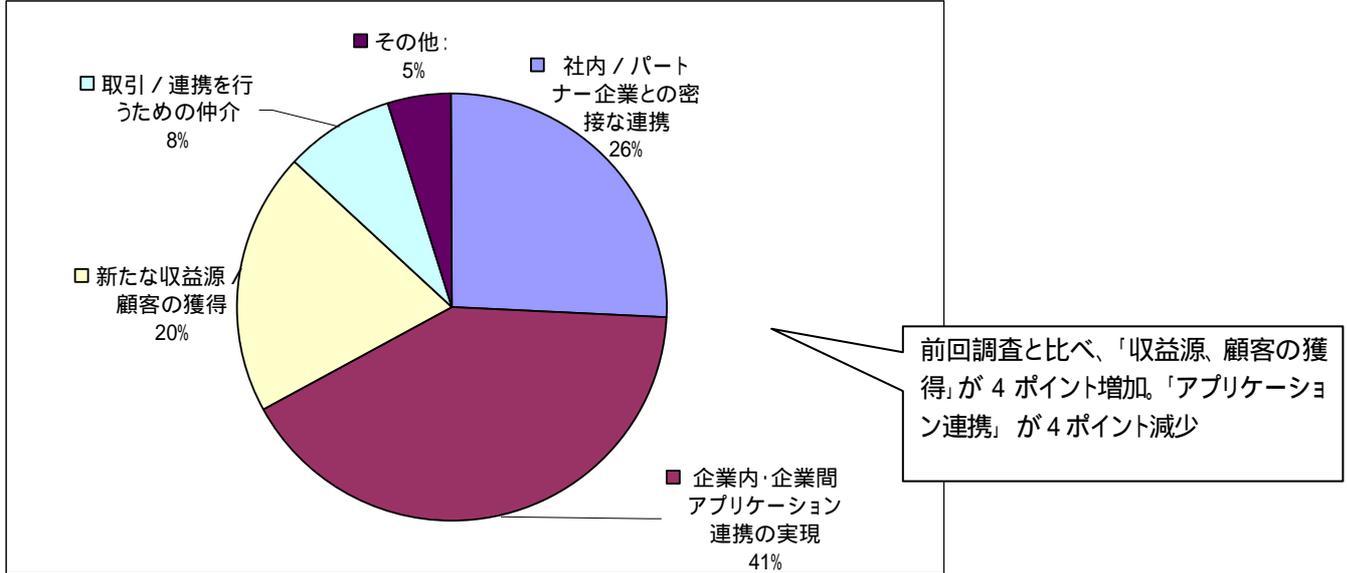
serv
WebOTX
WebSphere Application Server、WebSphere Extended Deployment、WebSphere Integration Developer、WebSphere Process Server、WebSphere Adapters、WebSphere Partner Gateway、WebSphere ESB、WebSphere Message Broker、WebSphere Federation Server、WebSphere Product Center、WebSphere DataStage、WebSphere MetaStage、WebSphere QualityStage、WebSphere Information Integrator、WebSphere Data Power、WebSphere Development Studio Client Advanced Edition for iSeries、CICS TS、IMS、Host Access Transformation Services、Rational Application Developer、Rational Software Architect、Lotus Domino、Lotus Expeditor、Lotus QuickPlace、Lotus Workflow、Workplace Collaboration Services、WebSphere Portal、DB2 UDB、DB2 9、OmniFind Enterprise Edition、Records Manager、WebSphere Information Integrator、Tivoli Identity Manager、Tivoli Access Manager、Tivoli Composite Application Manager、Tivoli Federated Identity Manager、Tivoli Monitoring for Web Infrastructure、他製品、各種サービス
IMPACT-DM(通信販売企業向けソリューション)
PolarLake、ProwiseXML
Cosminexus 他
Interstage、等
ADOS XMLStudio
Open Autonomic Network
UMLaut/J-XML
Webサービス & SOA技術センター
WebLogic 関連
Web カタログ「RealRead」、販促ツール制作システム「C-Print」
デジタルテレビ関連業務他
社内利用情報系システム
時刻認証サービス SEIKO Cyber Time
Imperva 社 SecureSphere Web アプリケーション・ファイアウォール [代理店販売]
CrossMission Web サービス・フローコントローラ
Web コンテンツとして
Artix、Celtix Enterprise
ESB,WAS
BEA 製品全般
Web アプリケーション開発に関する各種教育プログラム
RichResourceStadium
楽2 ライブラリ DocumentManager
Xuras Workflow,Xuras inicio, EXTES Xuras
ほぼ全業務、システムにおいて Web 化対応済み
印刷で利用するツール
FDi ネットサービス、ミニラボ周辺ソフト、ほか
マイクロソフトの.NET 対応で、いろいろなところで、利用するようになってきた。
地方自治体の電子政府系システム
「hon.jp Web サービス()」
サイト番頭
Notes 文書を Web で読み書きする
AgetLogicFramework
出版制作システム
Web 入稿パンフレット版下制作サービス
Bitway

適用予定なし 理由:

SOA として検討中
技術的に適用案件が不明なため
興味はあるが、現状では具体的な業務が無い
ビジネスモデルが構築できない。現在は、ベンダー主導型、導入が困難、
現状の業務に直接必要がない。

現状、適用出来るユーザ、プロジェクトが無い
 ため
 適用分野が不明、提案できる技術者が少ない
 回答者は知識を有していない
 以前のバージョンでは Soap インターフェースを実装していたが、あまり需要がなかったため

11. Web サービスを適用してみたい対象領域(複数選択)

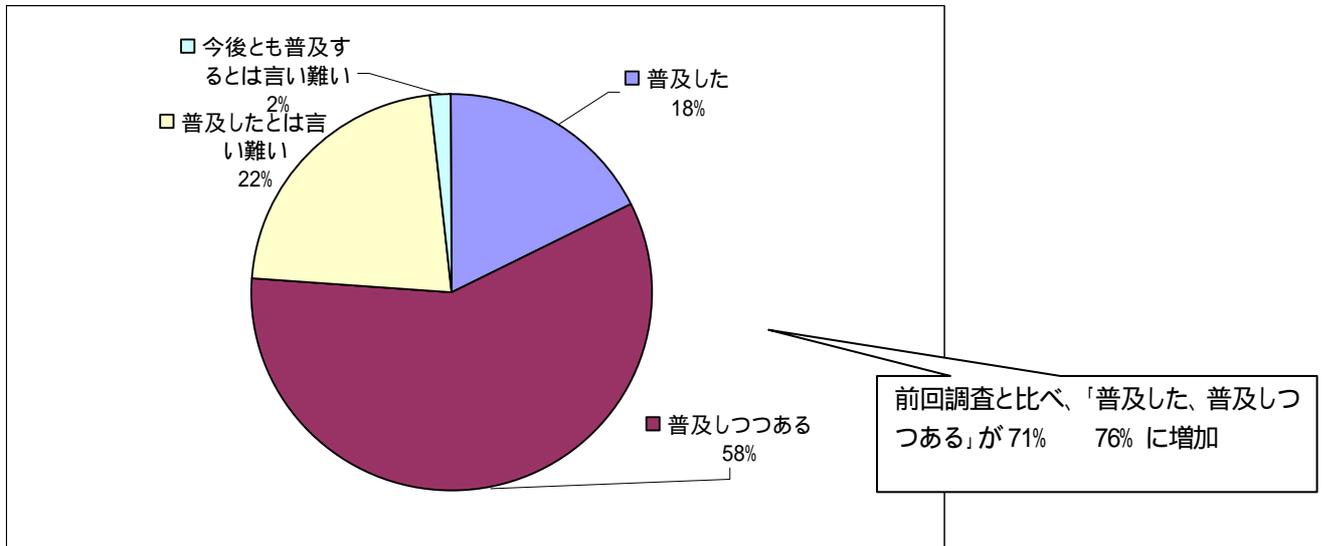


その他:

- クライアントアプリケーションの protocols
- 対象領域の希望は特になし。有効に使える場合のみ。ほとんどの場合、Web サービスを無理に使う必要性がないと考えます。
- 現状、適用業務がなく判断できない
- 周辺機器と業務システムとの連携
- 弊社の受注案件によるので、選択できません
- 基盤ソフトウェア上で Web サービスのインフラを実装
- ソフトウェア連携の標準として
- 不明

12. 日本における Web サービス技術の普及度合い

1) IT 業界における Web サービス技術の普及度合い



普及したとは言い難い理由:

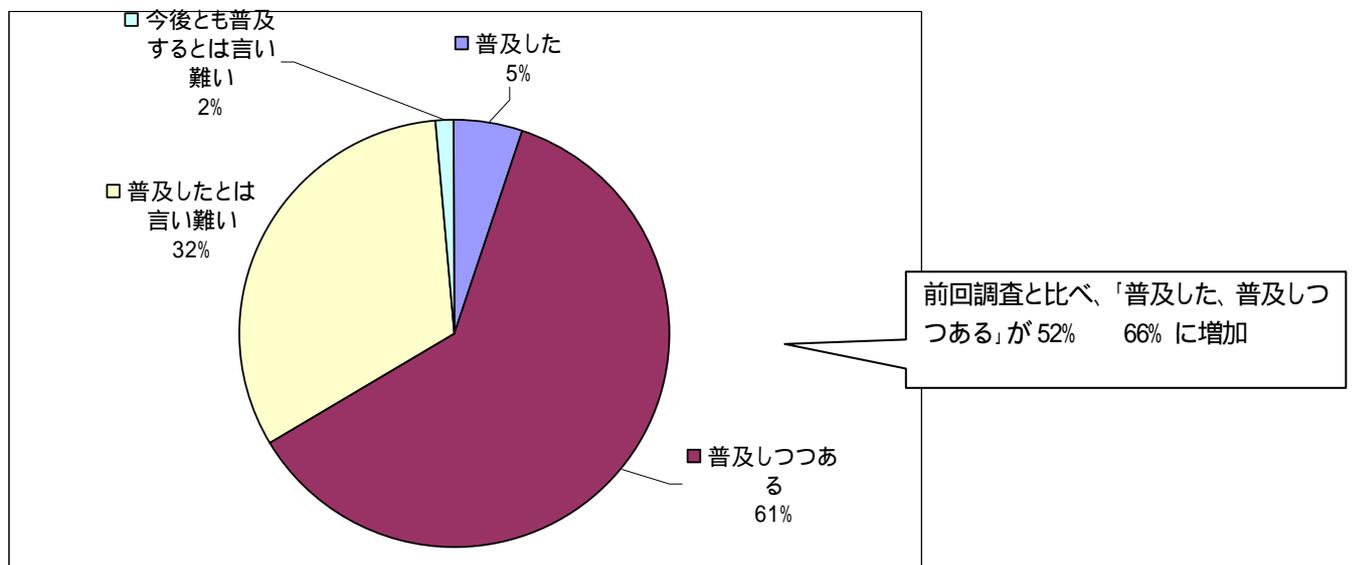
周辺の煩雑な状況が多過ぎて、技術者が容易に使える段階に来ていないと思われます。

対応製品が売れていない？
 何を持って WEB サービスというか不明
 現状、関連業務が無く判断できない
 実際に適用をさせようとする様々な障害があり難しい
 取引企業での採用例が少ない(無い)
 事例が少ない。
 適用事例が話題になっている
 キラーアプリの欠如
 身近なところでの本格的な適用事例が少ない印象です。
 難しい技術
 普及を促進する良いサービスが国産でない
 あまりポピュラーではない
 一般の企業での開発であり話題にならないため
 精通した人物が少ない、もしくはその人物による発言が少ない
 疎結合を理解しているエンジニアが少なすぎる
 サービスの概念が広範で不統一
 有用なサービスの絶対数
 まだ言葉の意味すら知らない人がいる
 セキュリティ関連対応を始めもっと容易な基盤にならないと。

今後とも普及するとは言い難い 理由:

概念としての定義は普及するが個別の技術仕様になるだろう
 回答者は知識を有していない

2) ユーザー企業における Web サービス技術の普及度合い



普及したとは言い難い 理由:

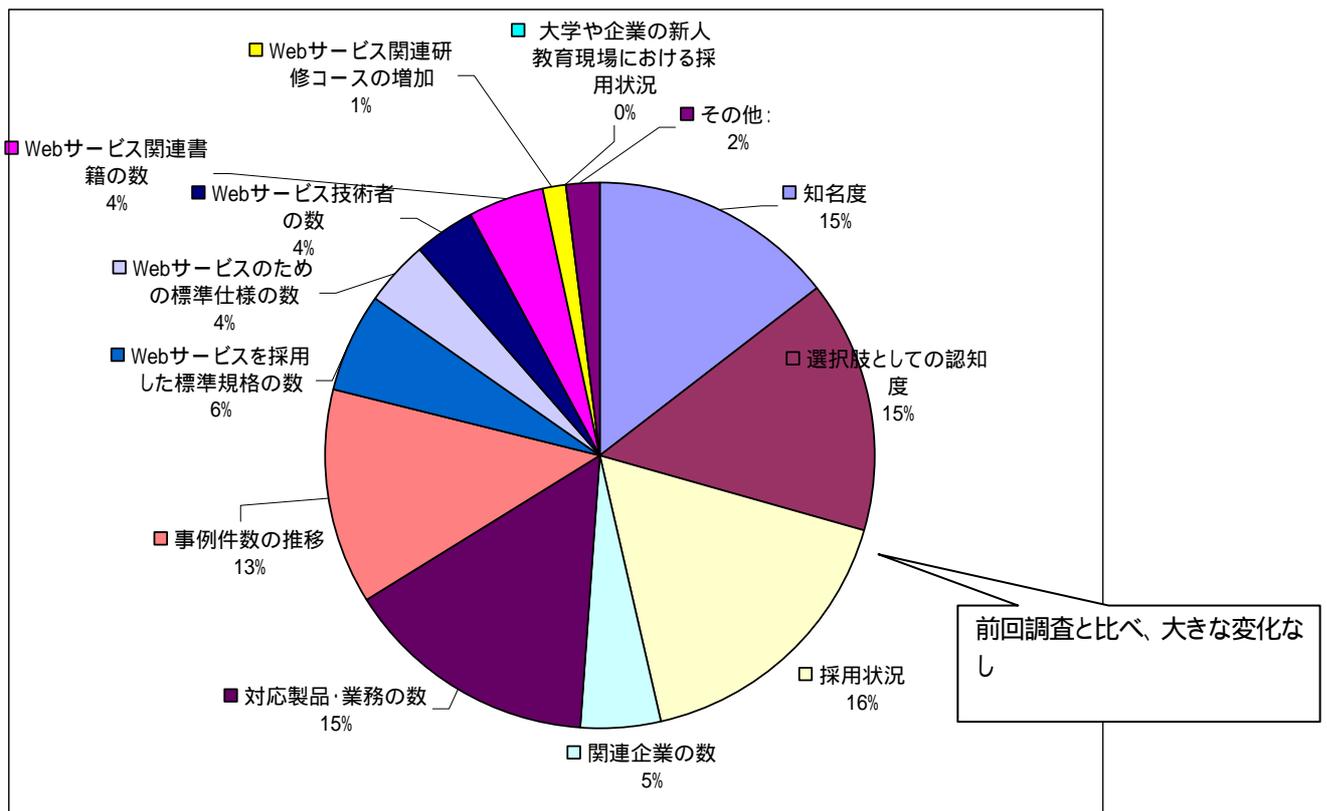
基幹システムの改修が難しい
 言葉としては一定の知名度を得ていると思うが、そもそも Web サービスとは何かを理解されていない状況であるため。
 トランザクション、セキュリティがネック
 サービス提供事業者が少数、企業間連携で利活用が活性化していない。
 Web サービスを必然とするシステムはそう多くないため
 技術を意識しないで利用が進んでいくのではないか
 上記理由により、使う人も少ない。代替の選択もあるでしょう。
 概念先行で「技術」が普及したとは言い難いのは。
 何を持って WEB サービスというか不明
 現状、関連顧客が無く判断できない
 実際に適用をさせようとする様々な障害があり難しい

取引企業での採用例が少ない(無い)
 一目瞭然
 事例が少ない。
 身近なところでの本格的な適用事例が少ない印象です。
 周りで話題を聞かない。
 もう少し時間が必要
 知名度も無く、現実的に積極的に採用する企業が無い
 エンジニアの不足感があるため。
 ユーザに還元出来るサービスが不足
 あまりポピュラーではない
 W3C 的な Web Service よりも REST や XML-RPC の方が一般的
 適用推進者がいない
 サービスの概念が広範で不統一
 有用なサービスの絶対数

今後とも普及するとは言い難い 理由:

概念としての定義は普及するが個別の技術仕様になるだろう
 回答者は知識を有していない

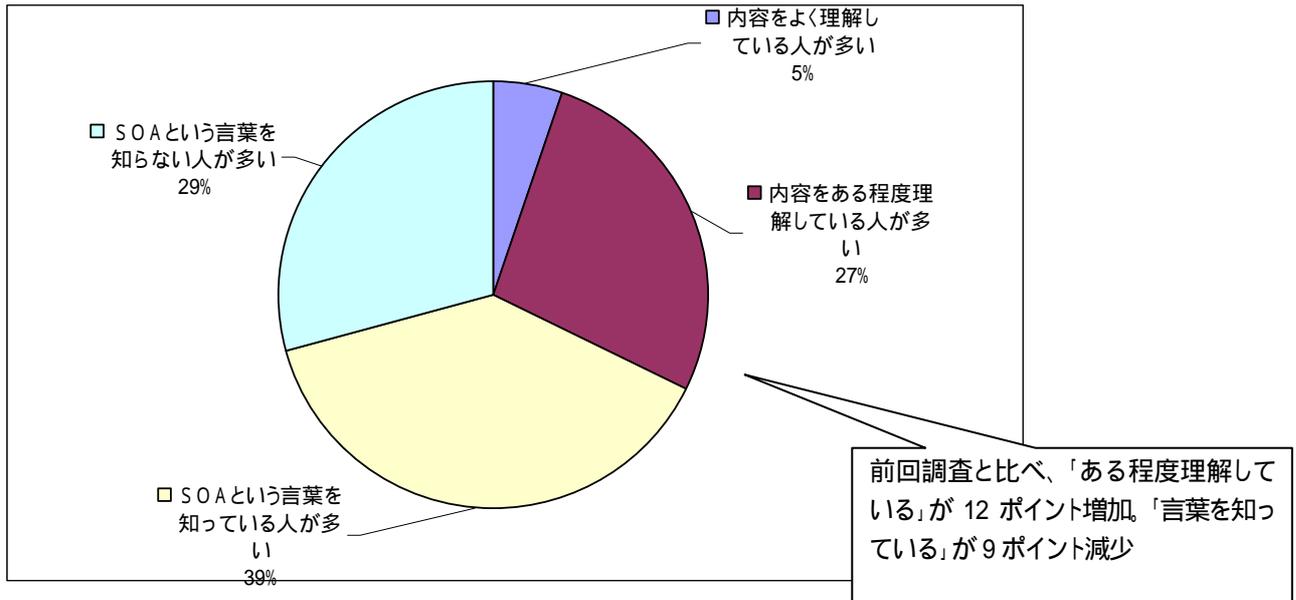
13. 上記設問に回答するにあたり、普及度合いを判定した基準(複数選択)



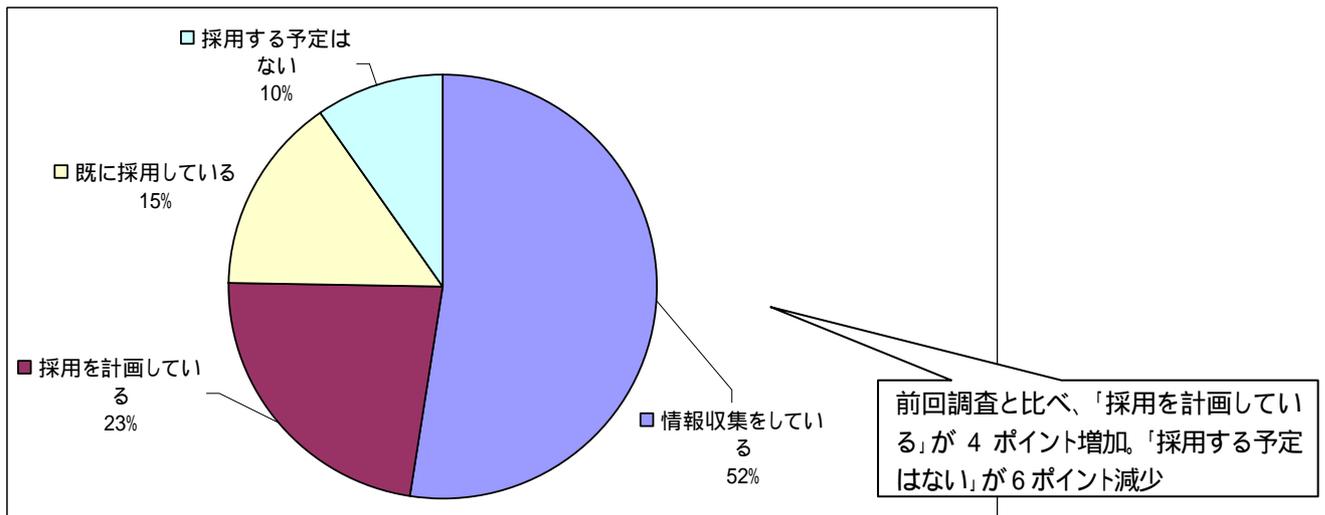
その他:

現場の経験
 実際の SI の現場ニーズから
 現状、関連業務や顧客が無く判断できない
 説明等が全て IT 業界向けであるため敷居が高い
 仕様 内容
 理解度、製品群や規格の完成度

14. SOAに関する社内の理解状況について



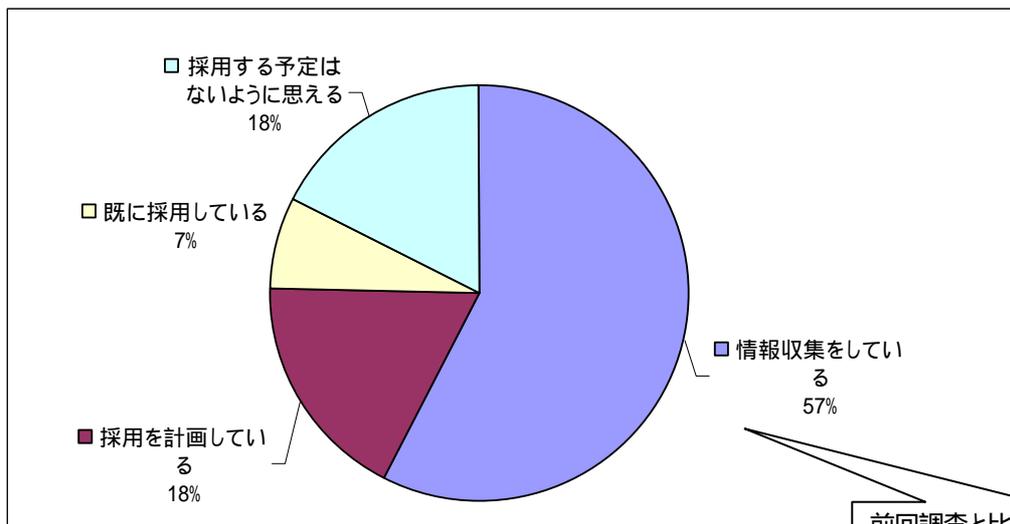
15. SOAに対する採用状況



採用する予定はない 理由:

- 技術的な適合分野が不明なため
- 現状適用業務が無い
- 適用可能な分野がないため
- 関心がないので
- 現状の業務に直接必要がない。
- 企業規模が小さいため、社内システムが無いに等しい
- システムは全て海外本社が担当
- 質問の意図不明 SOAモデルのシステムの導入???
- 回答者は知識を有していない

16. ユーザー企業における取り組み状況

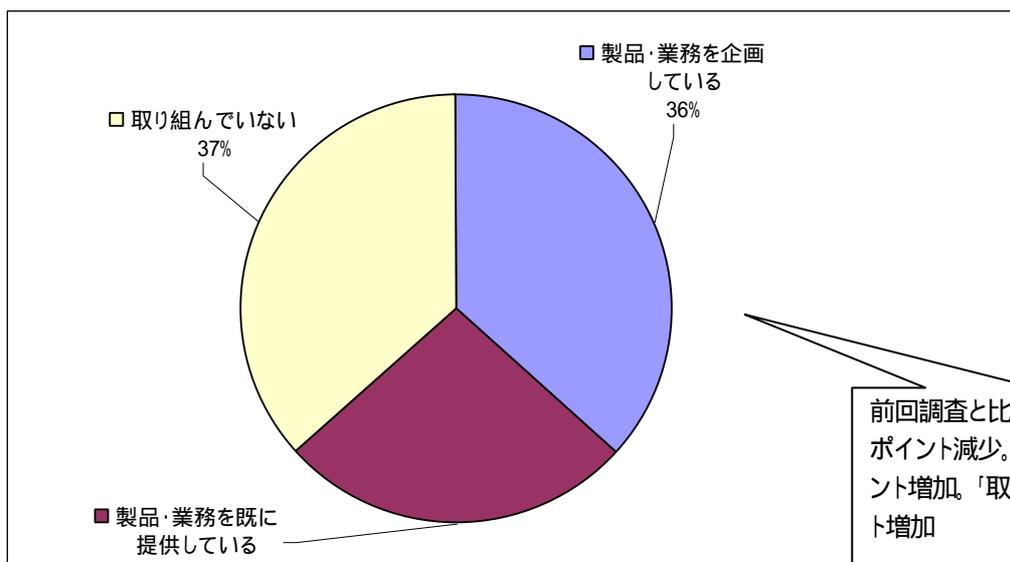


前回調査と比べ、「情報収集」が 6ポイント減少。「採用している、採用を計画している」が 18% 25%に増加

採用する予定はないように思える 理由:

- 必要としているお客様は少ないため
- ITベンダが具体的なメリットを提示できていない
- 関連顧客が無く判断できない
- IT業界専門のアーキテクチャとされていることや、説明が高度すぎる
- SOAを狭く捉えて、ビジネスとEAIを繋ぐものと限定するなら、採用を計画している企業はあると思うが「わかりません」という選択肢がほしいです
- ユーザへの提案をしたことがあるが、それ以前にやるべきことが多く不採用となった
- 用語としての認知に留まっている
- SOAでサービス化する業務の粒度がテクノロジーとして明確でない
- ベンダー間の言葉に違いがあるもののその言葉で採用は進んでいる。
- 不明
- とくに啓蒙活動をしていないため
- 回答者は知識を有していない
- 知らないのです

17.ITベンダー会員のSOAに対する取り組み状況



前回調査と比べ、「企画している」が 10ポイント減少。「提供している」が 4ポイント増加。「取り組んでいない」が 6ポイント増加

製品・業務を既に提供している 製品・業務名:

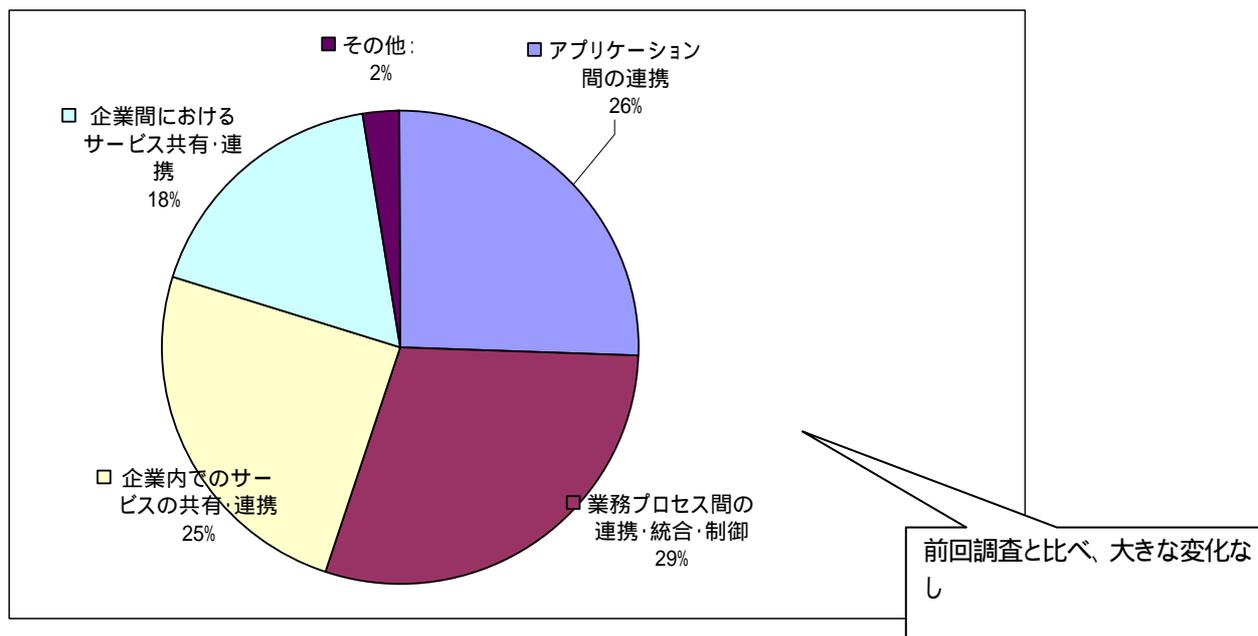
- ASTERIA
- WebSphere Application Server, WebSphere Business Modeler, WebSphere Integration Developer, WebSphere Process Server, WebSphere Business Monitor, WebSphere Enterprise Service Bus, WebSphere Message Broker, WebSphere Adapters, WebSphere Partner Gateway, WebSphere Service Registry and Repository, WebSphere Portal, Workplace Managed Client, Lotus Expeditor, IBM

Information Server、Rational Application Developer、Rational Software Architect、Rational Software Delivery、Tivoli Composite Application Manager、他製品、各種サービス
 SOA 適用コンサルティング・サービス
 PolarLake、ProwiseXML
 IT システム最適化コンサルティング、システム再生コンサルティングサービス、Cosminexus、ビジネスプロセス評価・分析サービス、IT アセスメントサービス
 Interstage、等
 Webサービス & SOA技術センター
 WebLogic 製品
 ESB、WAS
 BEA 製品全般、特に AquaLogic 製品群
 MDA ツール「medini」
 地方自治体の電子政府系システム

取り組んでいない理由:

流行の潮流には乗る必要がない。ユーザが望めば取り入れる
 適用業務が無い
 詳細を理解していない人がけっこういるので、勉強会をいど
 弊社受注案件によるので、選択できません
 開発案件に巡り会っていないため。
 現在のビジネスモデルにマッチしない
 要望、適用事例がない
 今後の課題という認識です。
 分野が違うため
 製品の位置づけが異なる為
 以前はユーザ提案をしたが、受入れられ難い案件が多いため
 情報収集段階のため
 SOA の調査フェーズである
 弊社顧客の業務プロセスをうまくカテゴライズできない
 まだそこまでの体制になっていない。
 調査中だから

18. SOA を適用してみたい対象領域(複数選択)



その他:

有効に適用出来る場面を想定できません。SOA 全体ではなくその意図する言葉の一部分での特定対象はあると思います。

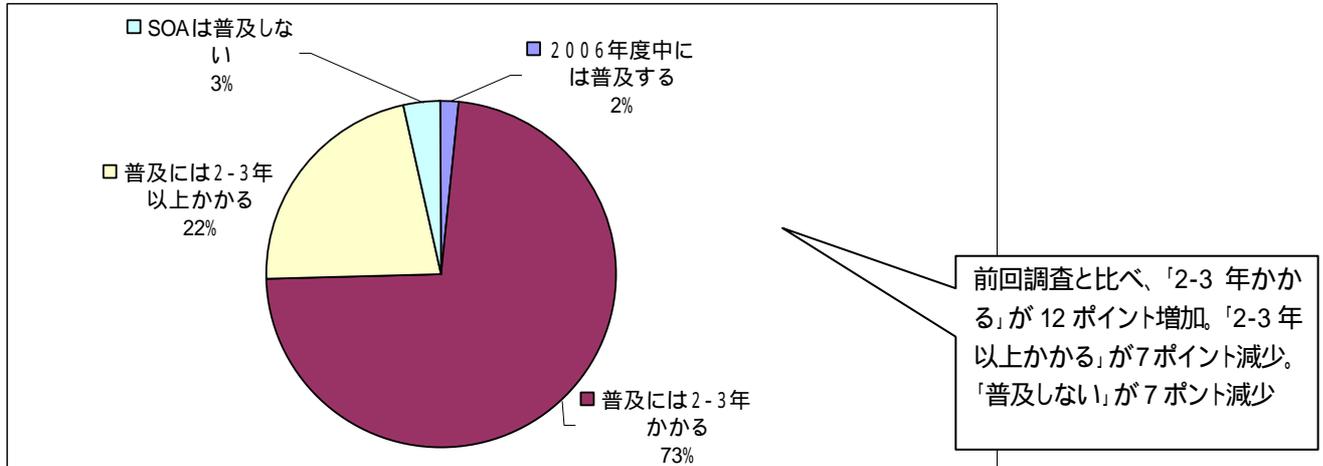
適用業務が無く判断できない

SOA は全てのデザイン思考なので、この質問変じゃないですか？

現状では思いつかない

地域医療連携

19. SOAの普及に関して



普及には2-3年以上かかる 何年以上:

5年程度

4-5年

5年程度

3-5年

5年

4-5年以上

SOA がきちんと定義されるまで

はっきりした予想は分からないが、IT 構築側の技術として少しずつ浸透するしていくとは思う

4 - 5年

5年

マイクロソフトの動向に左右されると考える

周囲に推進者がいない

5 ~ 6年以上

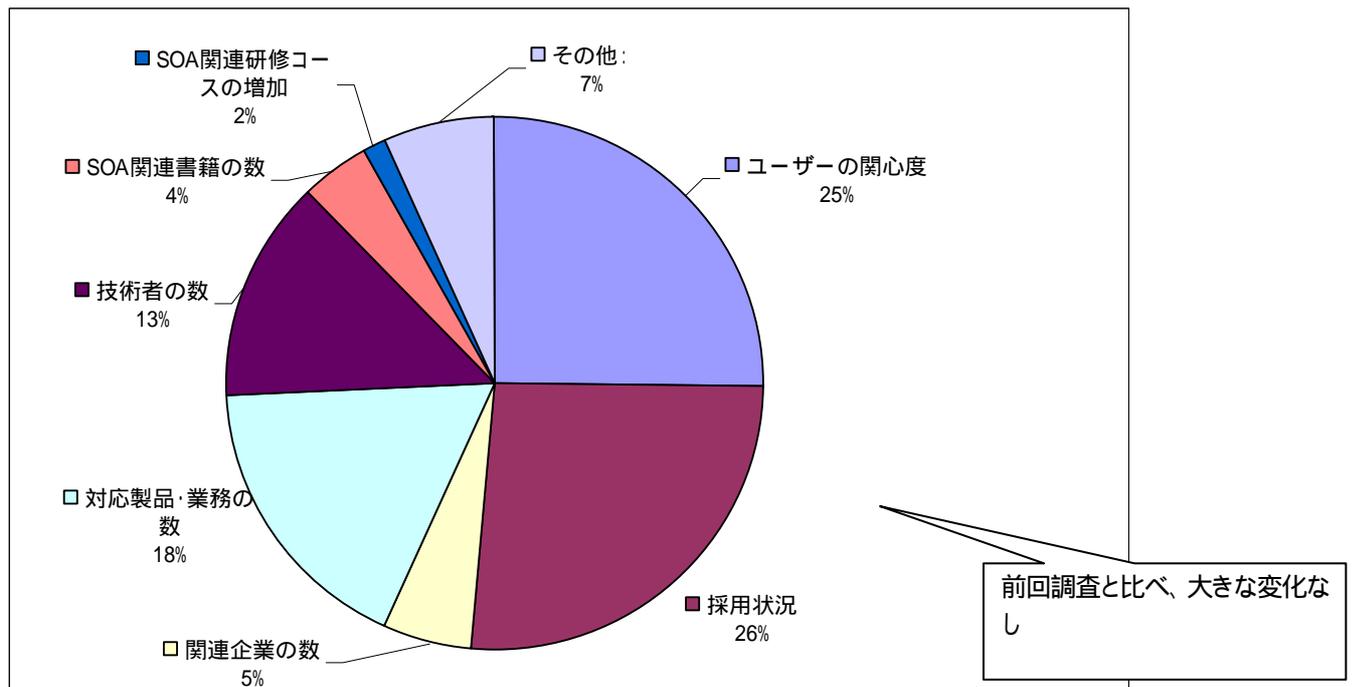
SOA は普及しない 理由:

SOA という名称は実体がないため。お客様が求められているのは、フレキシブルで弾力のあるシステムを構築して欲しいという事でしょう。

考え方に依るが、Web2.0 的な次の代名詞(流行)に置換されるのでは (SOA の概念は含んでいるにせよ)。

「わかりません」という選択肢がほしいです

20. 上記設問に回答するにあたり、どのようなことを念頭において普及予測をされたか(複数選択)

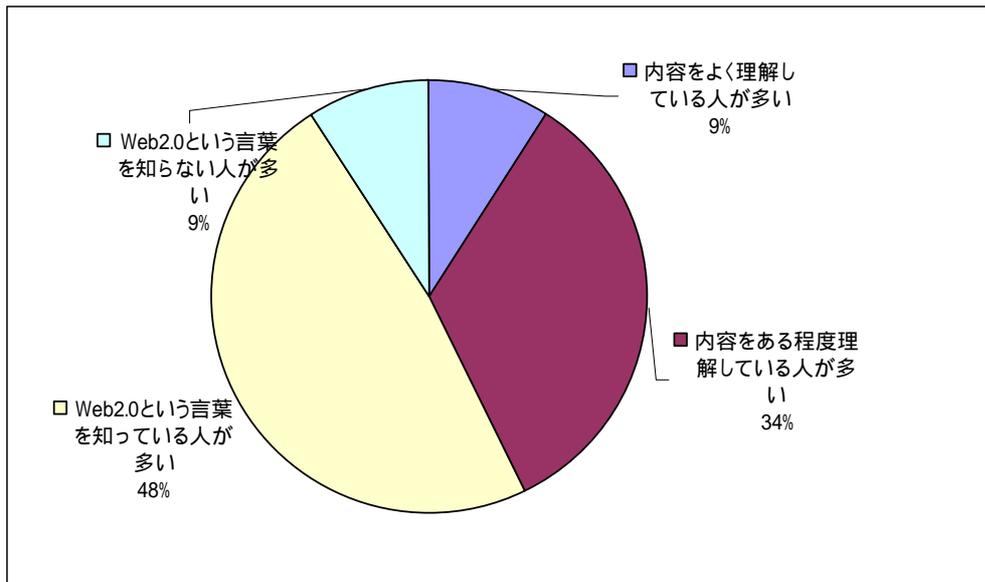


その他:

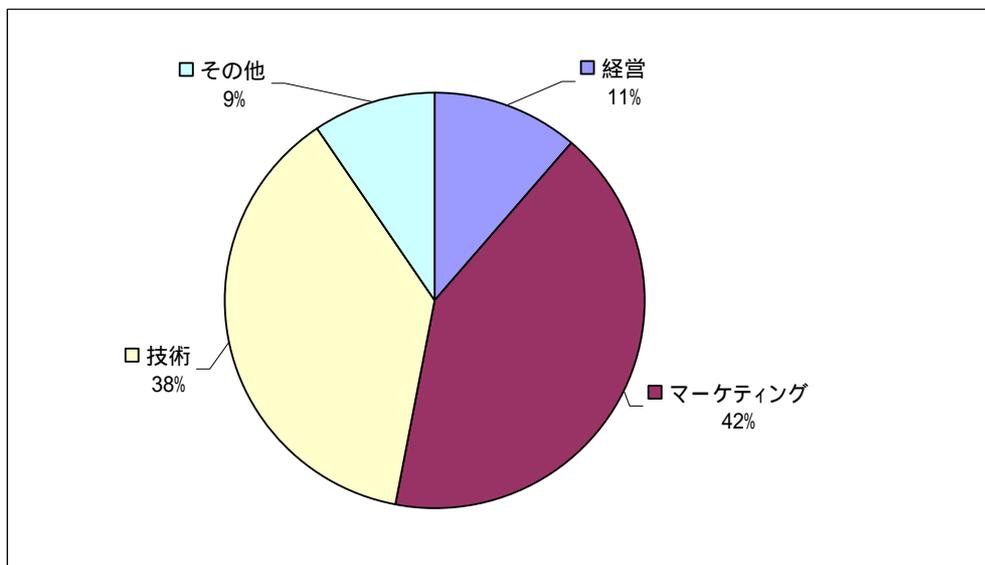
- コスト効果が分かりにくく、現状システムからの移行コストの方がユーザとして気になってしまうため。
- 理解度
- 標準が確立できていない
- 流行の移ろい易さ。
- この項目全般にいえますが・・・なんか間違ってる。本山であるここでこうだと、まだまだだという感じがさまざまに解釈される SOA の定義が固まるのに数年かかり、普及度を計れるのはその先と思われるので
- SOA 関係にはノータッチなので
- サービスの使用料金
- アプリとコンテンツの分離が難しい既存の汎用システムがオープン化するのに時間がかかるのでは？
- 技術の熟練度
- SOA から詳細アーキテクチャ、応用へ移行している現状
- ニーズとビジネスモデルとのマッチングのすすみ具合
- グループウェアからの移行の必要性や ITIL などの必要性
- 言葉だけが先走りしている
- 規格・製品の完成度

Web2.0 に関するアンケート

2.1 . Web2.0 に関する社内の理解状況



22. Web2.0 は、どの分野の話題だと思われるか? (複数選択可)

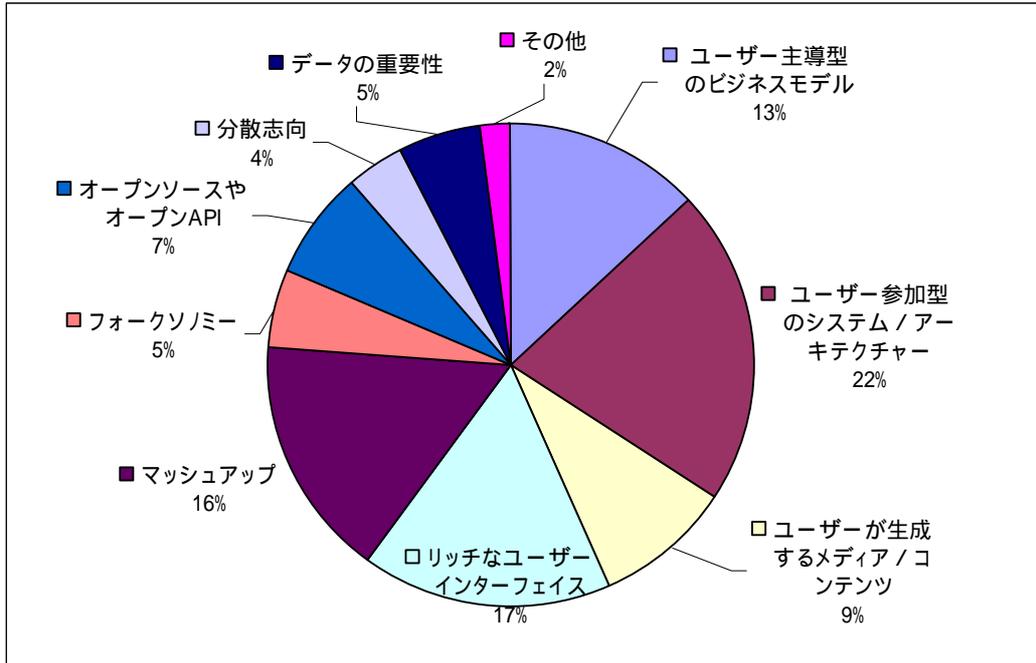


その他:

- 一般ユーザ向け
- コンシューマの環境、利用機能にちかい概念
- コミュニケーション
- ビジネスモデルにも言及している
- 社会現象
- 非企業分野
- 広がりがあり分野は特定できない
- 単なる用語だから全部
- コミュニケーション全般
- 情報
- エンターテインメント、メディア
- 前記全てを含み、結果として生まれた現在のWEBの技術・既存の考え方を新しい言葉で再定義したに過ぎない気がする
- 要求分析および設計、思考
- わかりません
- マーケティングや技術を含めたWeb周りの総称
- ユーザー

特定のスキームや技術を指すものとして定着していない
総合

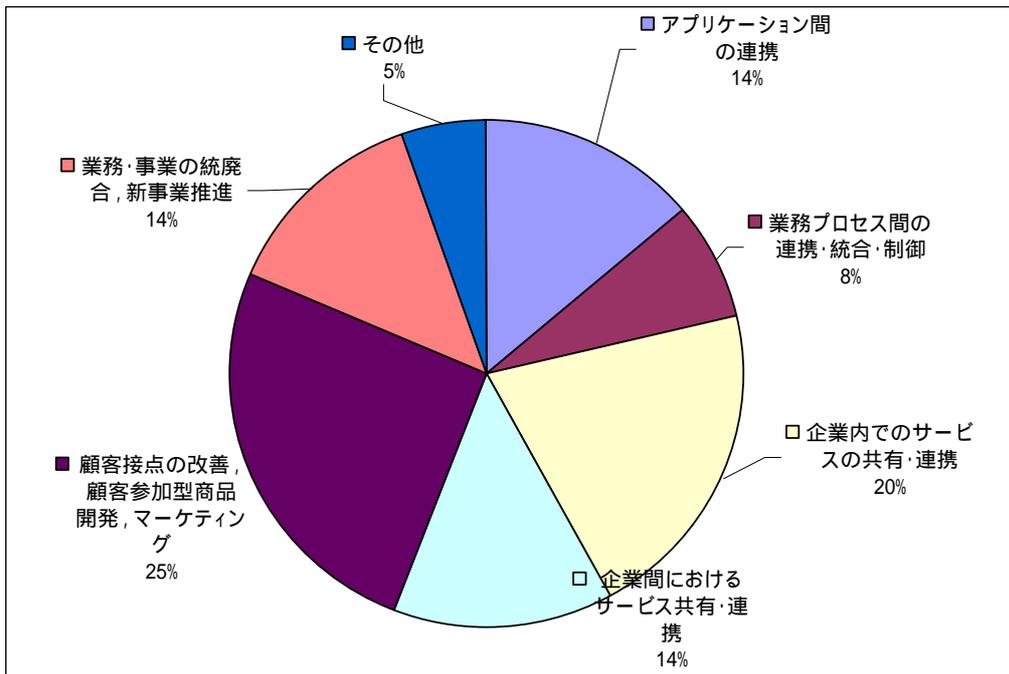
23. Web2.0と聞いて、何をイメージするか？(複数選択可)



その他:

- 高度化したデータ検索
- Google
- インタラクティブ性
- ご質問の意図がよく解りませんでした
- よくわからない
- わかりません
- Googleの脅威、データの置き場の悩み
- 電子社会の人格権

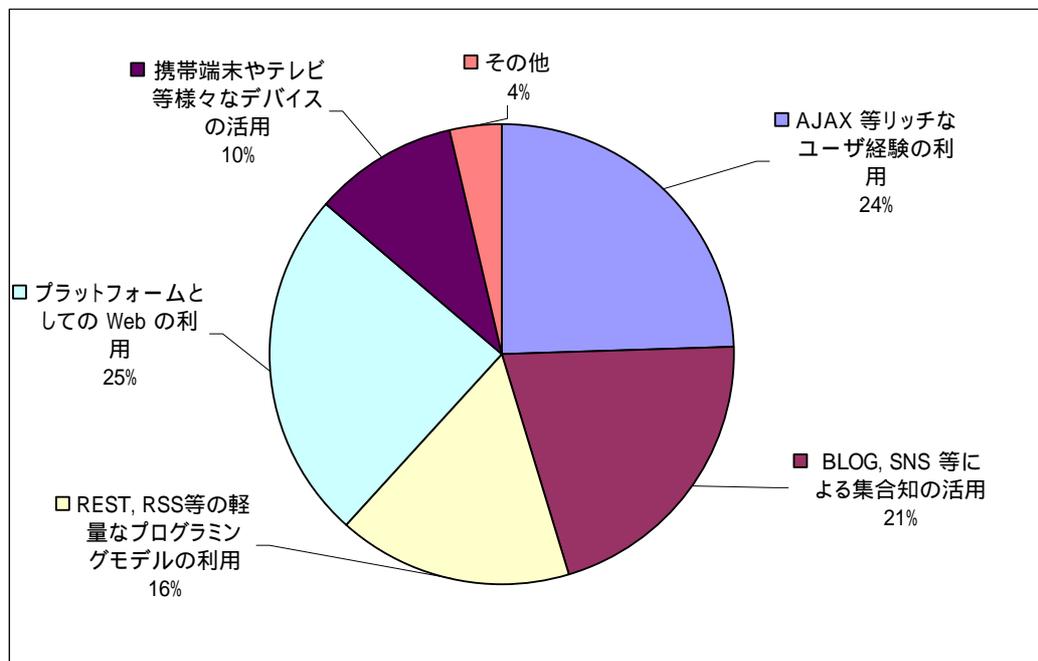
24. Web2.0を適用してみたい対象領域は？(複数選択可)



その他:

- 利用者主導型のシステム統合
- 非同期クライアント
- CGMによる口コミツールの応用
- マッシュアップによるアプリケーション連携
- わかりません
- SCADA

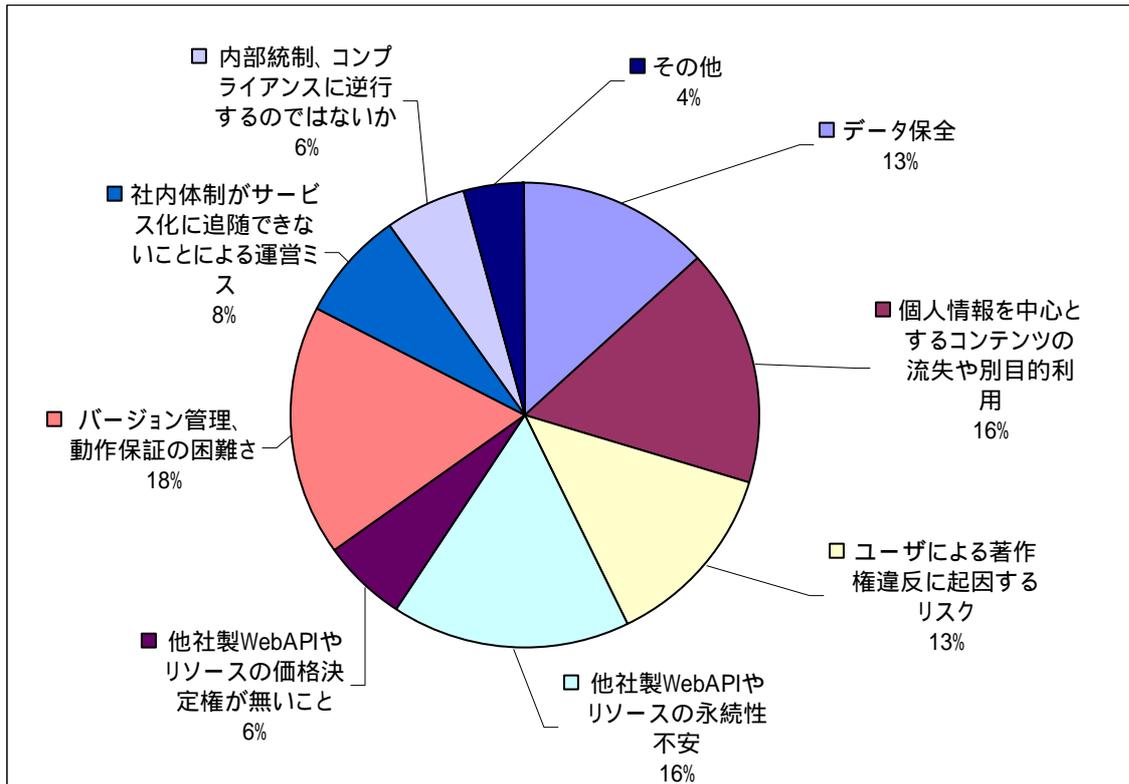
25. Web2.0 のどの原則、側面がビジネスにとって重要または有用と考えられるか？ (複数選択可)



その他:

- ここ当面ビジネスにとって重要なインパクトはない。単発での話題性のある製品、サービスが創出される程度ではないか。
- 社内コラボレーション基盤へのコンセプトの流用
- 情報を如何に公開するかが肝要。それを左右するのが人間の考え方。保身を求める方々にはそぐわないでしょう。
- 弊社の受注案件にどう関わるかによるので、選択できません
- わかりません
- 電子社会における信用や追跡性 ユーザ責任

26. Web2.0 的なサービスを導入する場合にリスクと思われるものは？ (複数選択可)



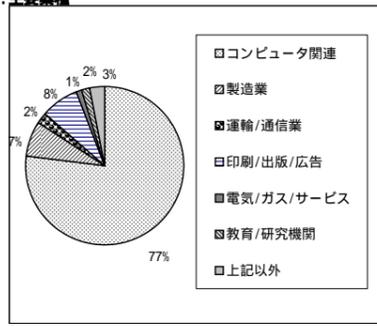
その他:

現状、Web2.0 的なサービスが何なのか意識統一されていないこと
 SNS の利用率低下や悪意の書き込み、ビジネスモデル破綻など
 全て。一番は利害関係を持つ人間の評価。
 web2.0 そのものでは余り儲からなさそう。
 セキュリティ - 侵入を許す新たな脆弱性の可能性という面で
 わかりません
 モラルハザード

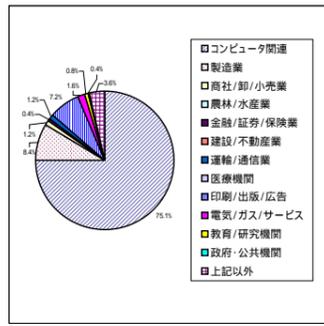
<比較データ:2001年度~2006年度>

2001年度

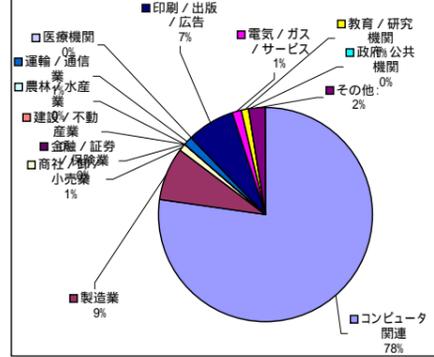
1. 主要業種



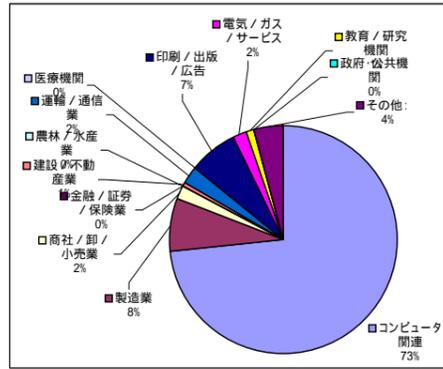
2002年度



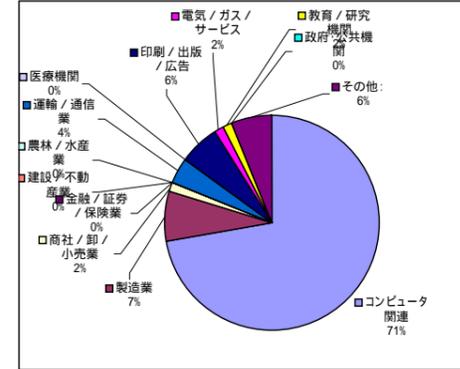
2003年度



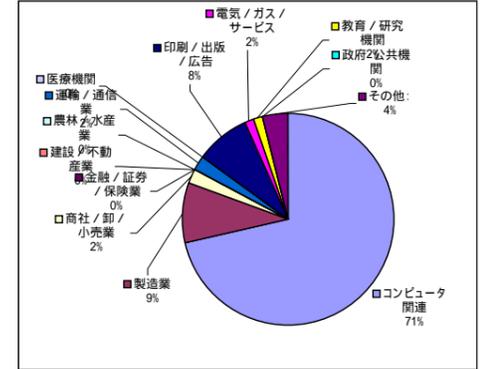
2004年度



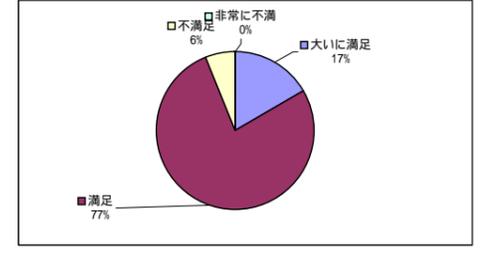
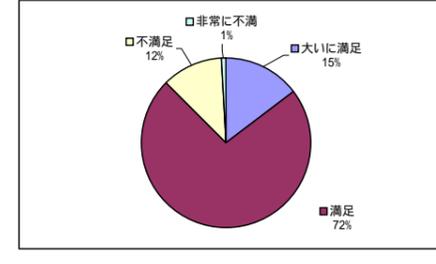
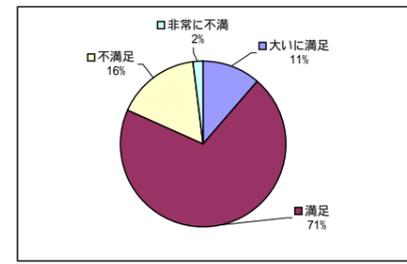
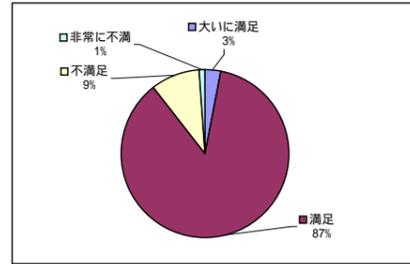
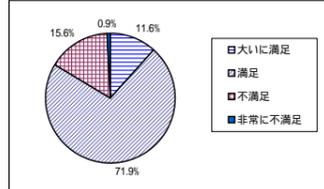
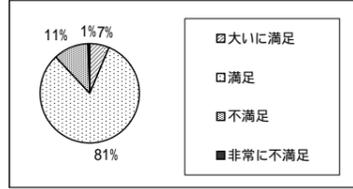
2005年度



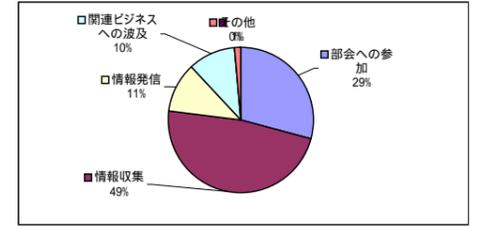
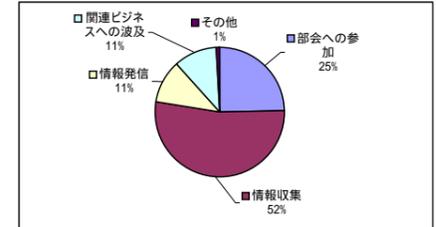
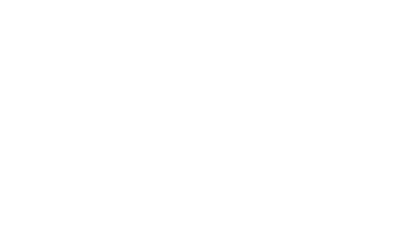
2006年度



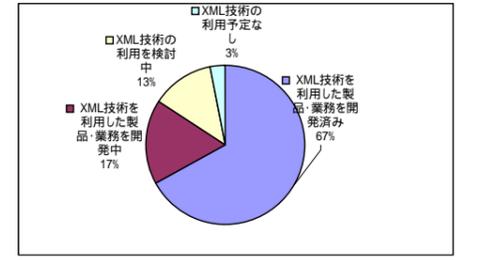
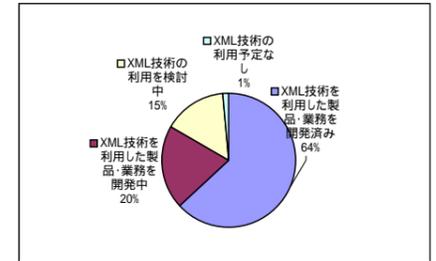
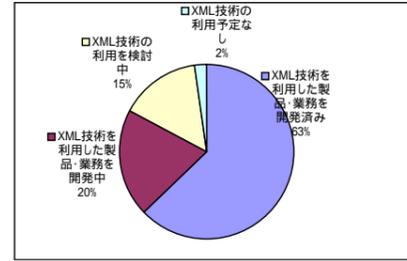
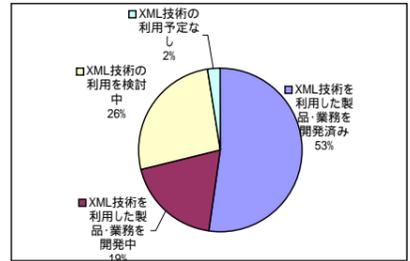
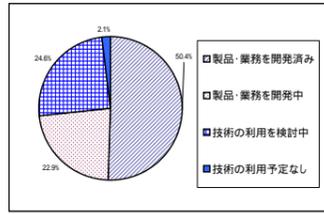
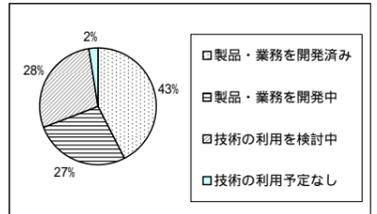
2. XMLコンソーシアムの活動に対する評価



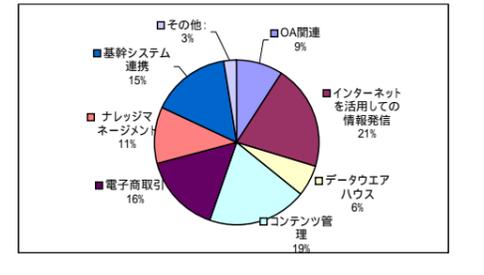
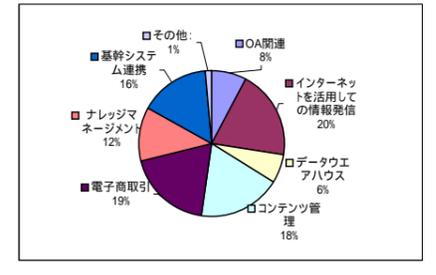
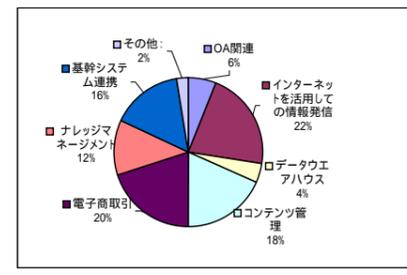
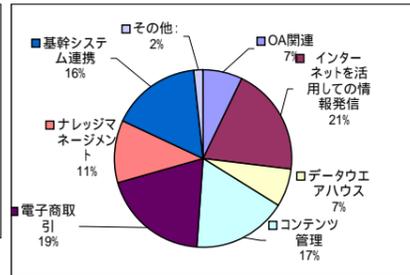
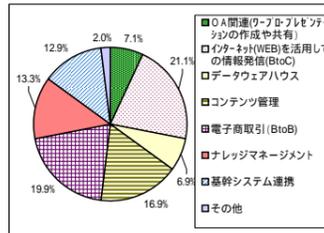
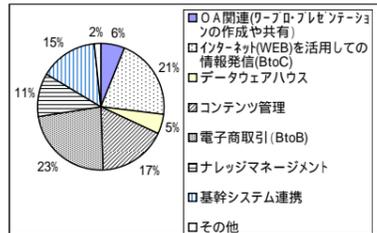
3. XMLコンソーシアムに参加する期待やメリット



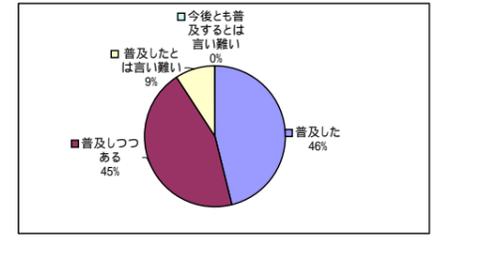
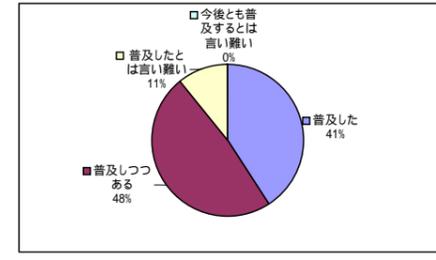
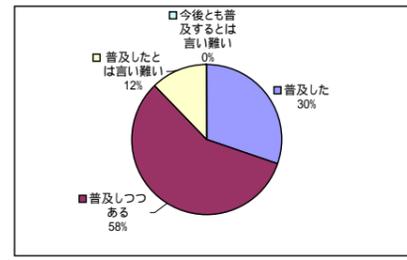
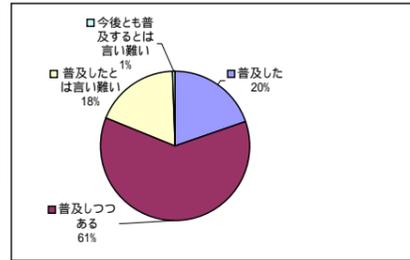
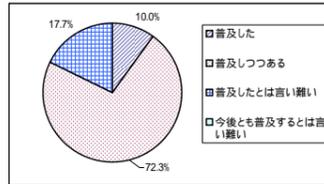
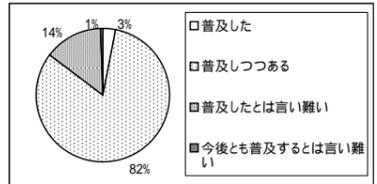
4. XMLに対する取り組み状況



5. XML技術の適用領域として選ばれるもの(複数選択)

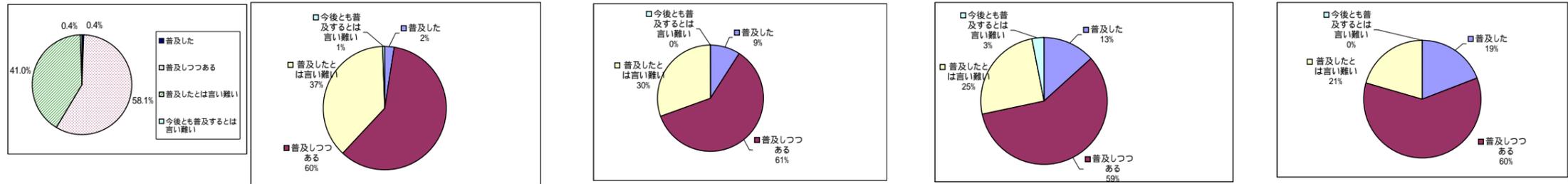


6. 日本におけるXML技術の普及度合い (1)IT業界におけるXML技術の普及度合い

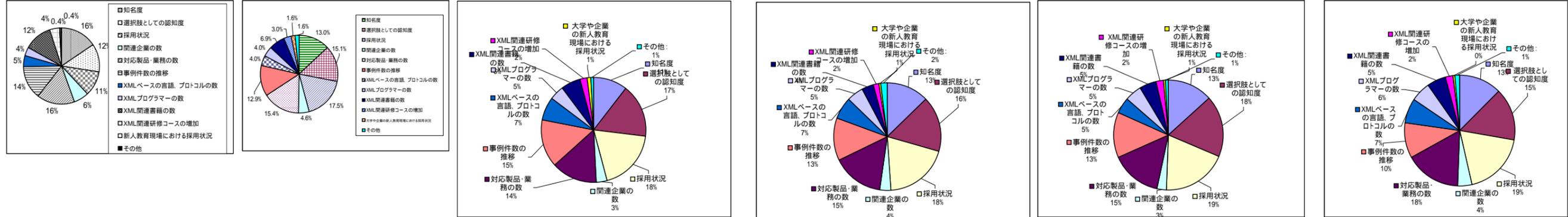


(2)ユーザー企業におけるXML技術の普及度合い

2001年度は、IT業界とユーザー企業との区別なし

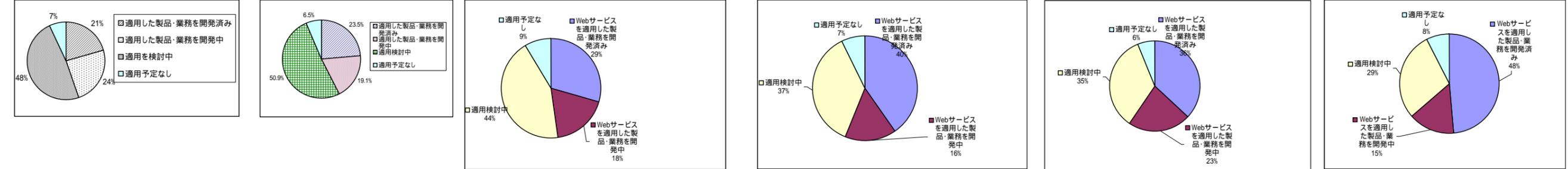


7. 上記設問を回答するにあたり、普及度合いを判定した基準(複数選択)

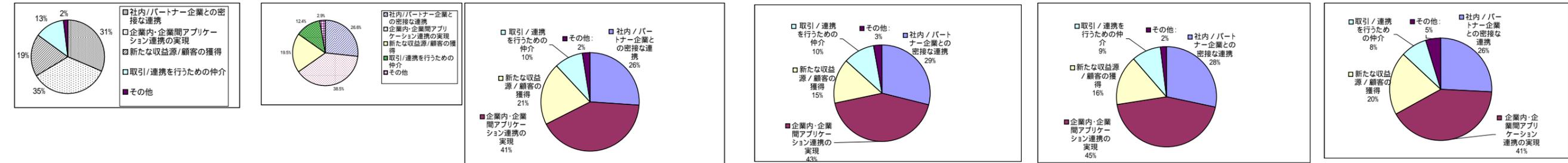


Webサービス普及度アンケート

8. Webサービスに対する取り組み状況



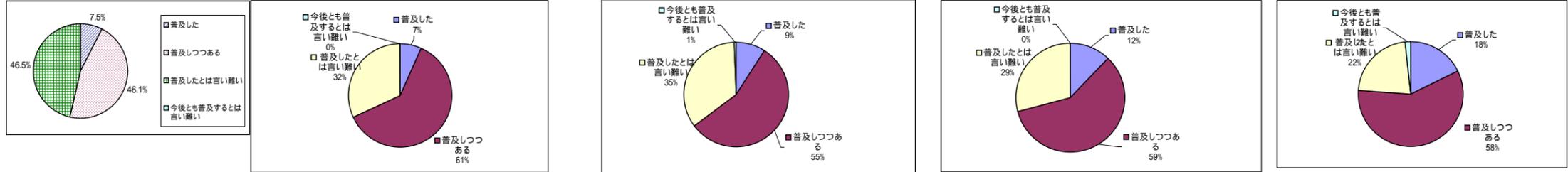
9. Webサービスを適用してみたい対象領域(複数選択)



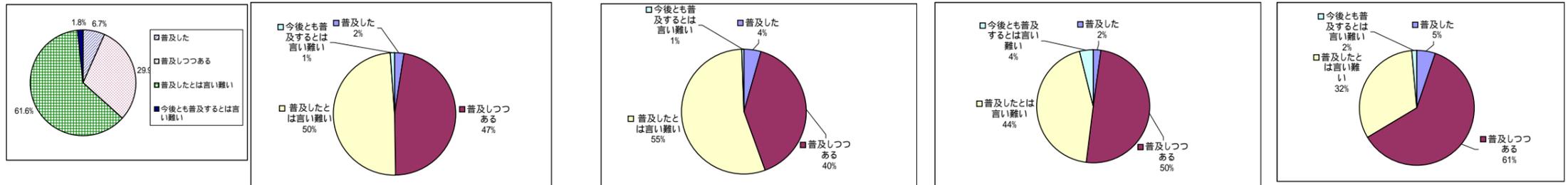
10. 日本におけるWebサービス技術の普及度合い

(1) IT業界におけるWebサービス技術の普及度合い

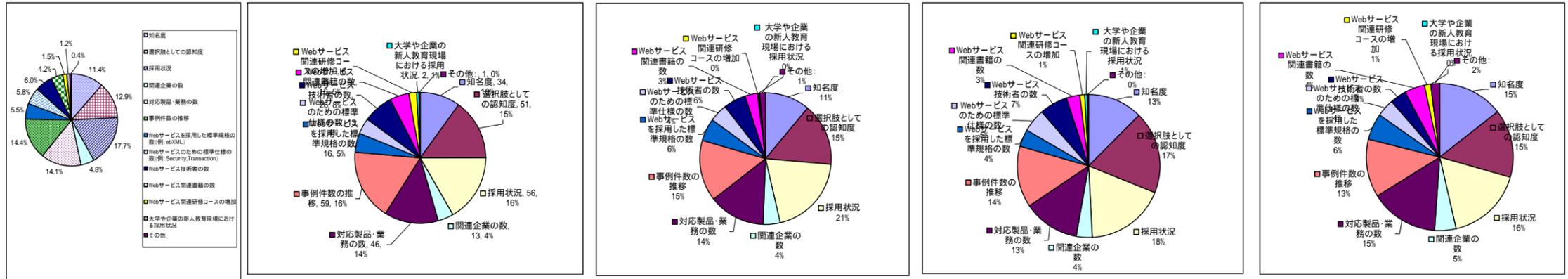
2001年度は以降設問なし



(2) ユーザー企業におけるWebサービス技術の普及度合い



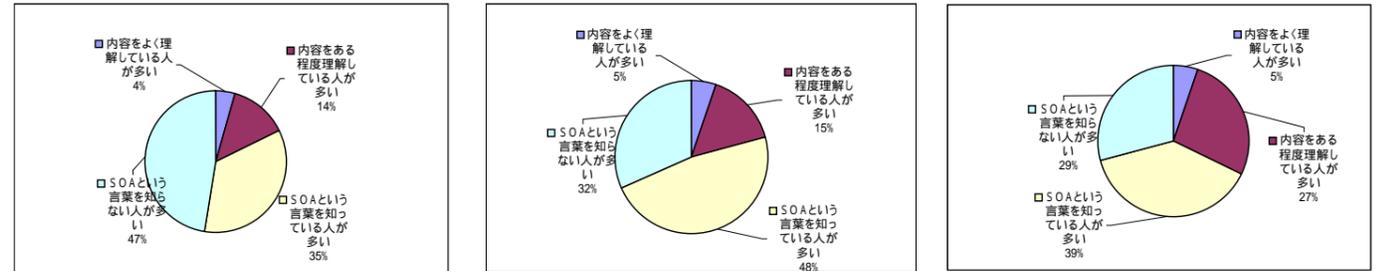
11. 上記設問に回答するにあたり、普及度合いを判定した基準 (複数選択)



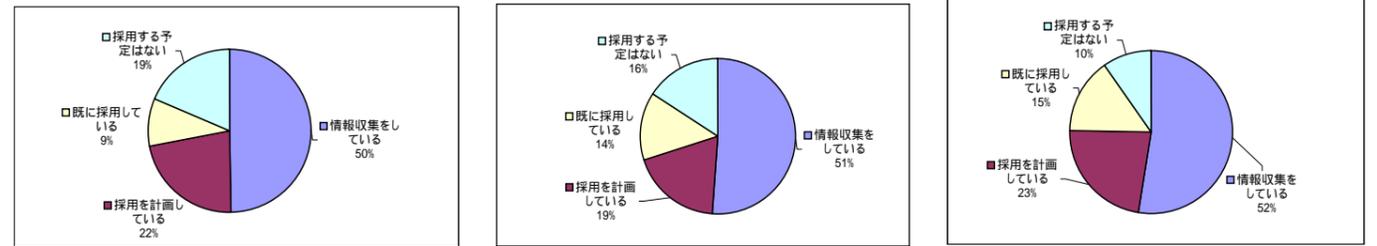
SOAに関するアンケート
12. SOAに関する社内の理解状況について

2002年度以降設問なし

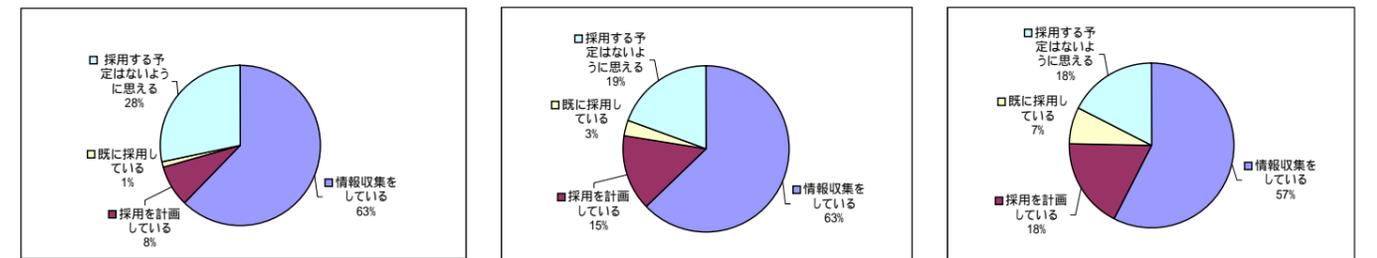
2003年度以降設問なし



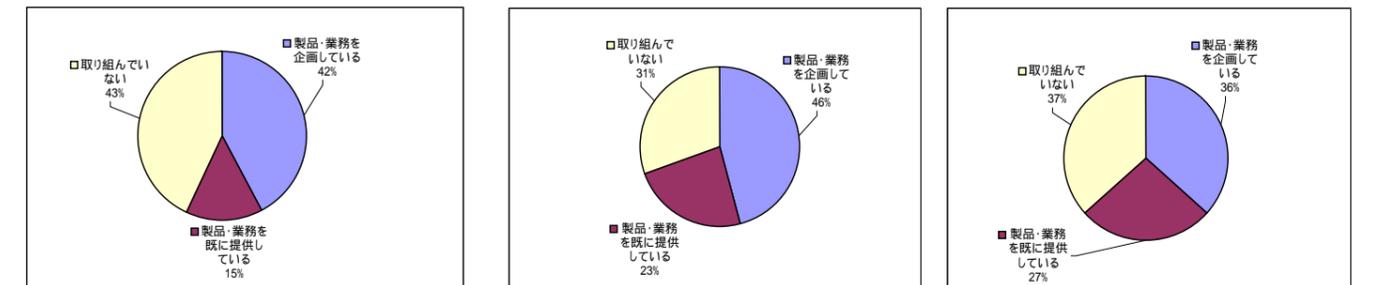
13. SOAに対する採用状況



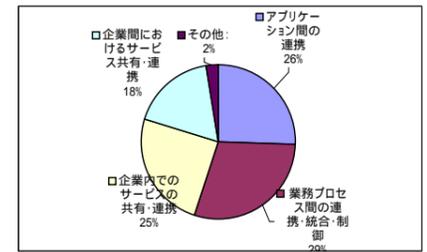
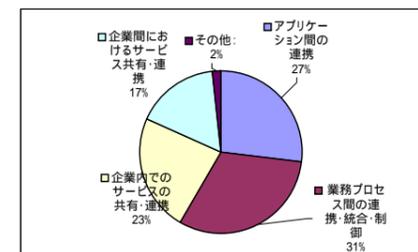
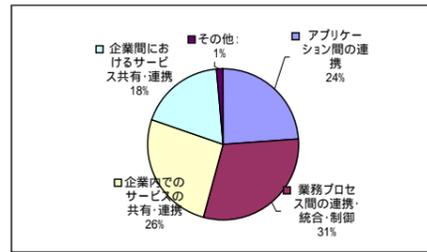
14. ユーザー企業における取り組み状況



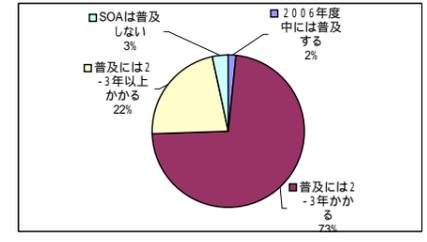
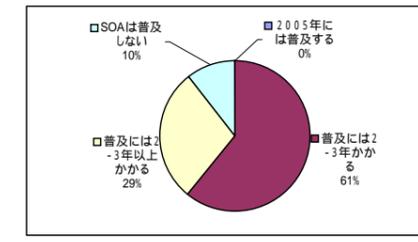
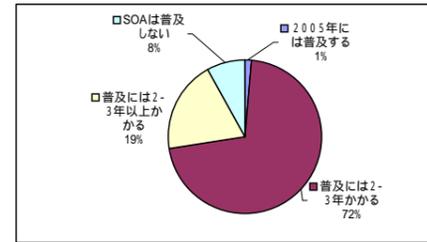
15. ITベンダー会員のSOAに対する取り組み状況



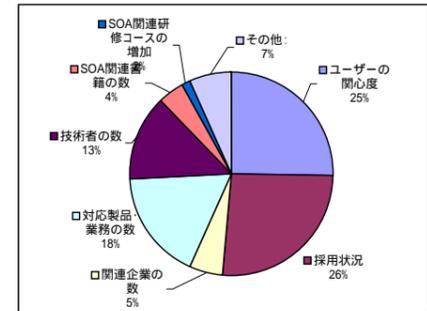
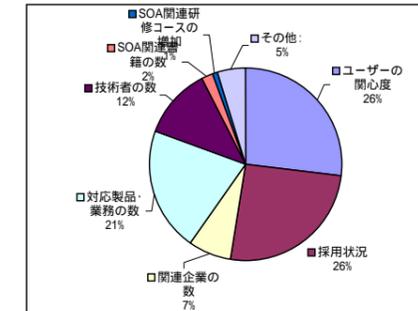
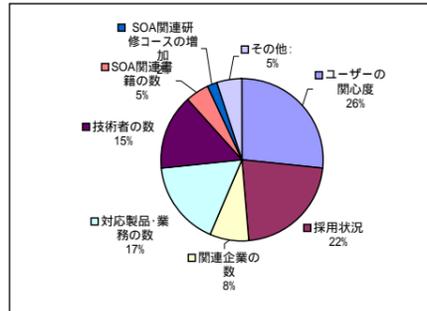
16. SOAを適用してみたい対象領域(複数選択)



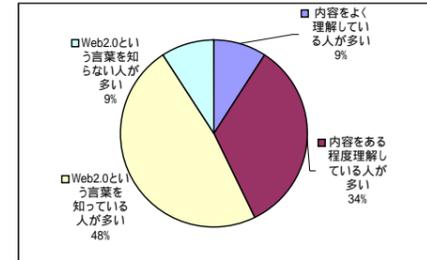
17. SOAの普及に関して



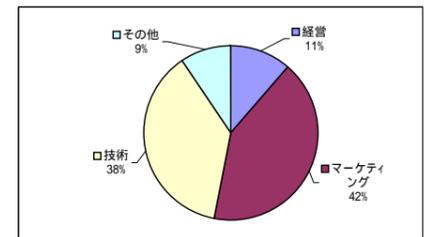
18. 上記設問に回答するにあたり、どのようなことを念頭に置いて普及予測をされたか(複数選択)



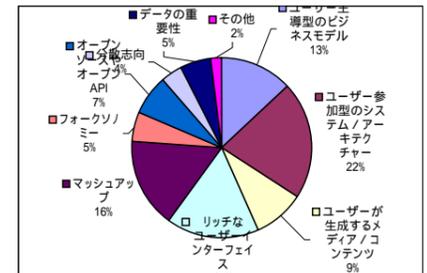
19. Web2.0に関する社内の理解状況



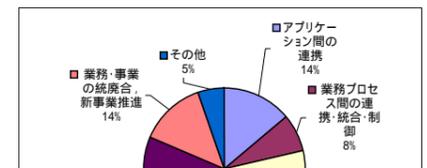
20. Web2.0は、どの分野の話だと思われるか(複数選択可)



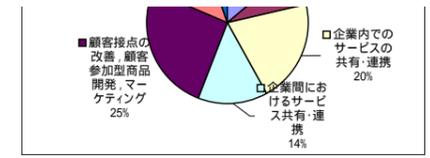
21. Web2.0と聞いて、何をイメージするか(複数選択可)



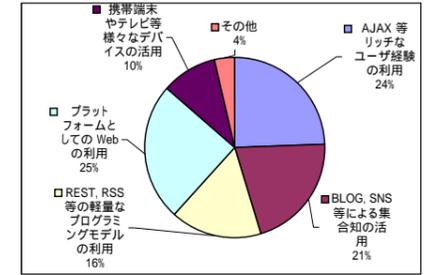
22. Web2.0を適用してみたい対象領域は?(複数選択可)



23. Web2.0のどの原則、側面がビジネスにとって重要または有用と考えられるか？ (複数選択可)



24. Web2.0的なサービスを導入する場合にリスクと思われるものは？ (複数選択可)



以上

